

豫防時報



33
1958

専 売 特 許

完全密閉蓄圧式消火器

特殊精製四塩化炭素
超強力消火剤使用

バルブレス

(車輛船舶用 ¼・⅜ gal……一般用 ¾、1 gal入)

金大消火銃

(放射管・特殊背負バンド付)

(1 gal・1.5gal入)

國家消防本部検定合格
損害保険料率算定会認定
運輸省車輛用・船舶型式承認品



消火器専門メーカー

ゴールデンエンゼル株式会社

本	社	東京都中央区銀座東六の七	電話東京(54)7379, 4611~4639
北	道	札幌市南一条西十四丁目一番地	電話札幌(2) 0728
出	張	所	東京(39) 2082
工	場	東京都杉並区八成町十五番地	

日本で初めての

白金式

完全防爆型照明

並に防爆型配線装置



爆発強度試験と爆発引火試験で保証する完全防爆型



伊東電機株式会社

東京都港区芝三田四国町2ノ4
電話三田(45) (代) 4191~4番
伊東電機防爆研究所 工学博士米田勝彦



一等入選 大火におののく

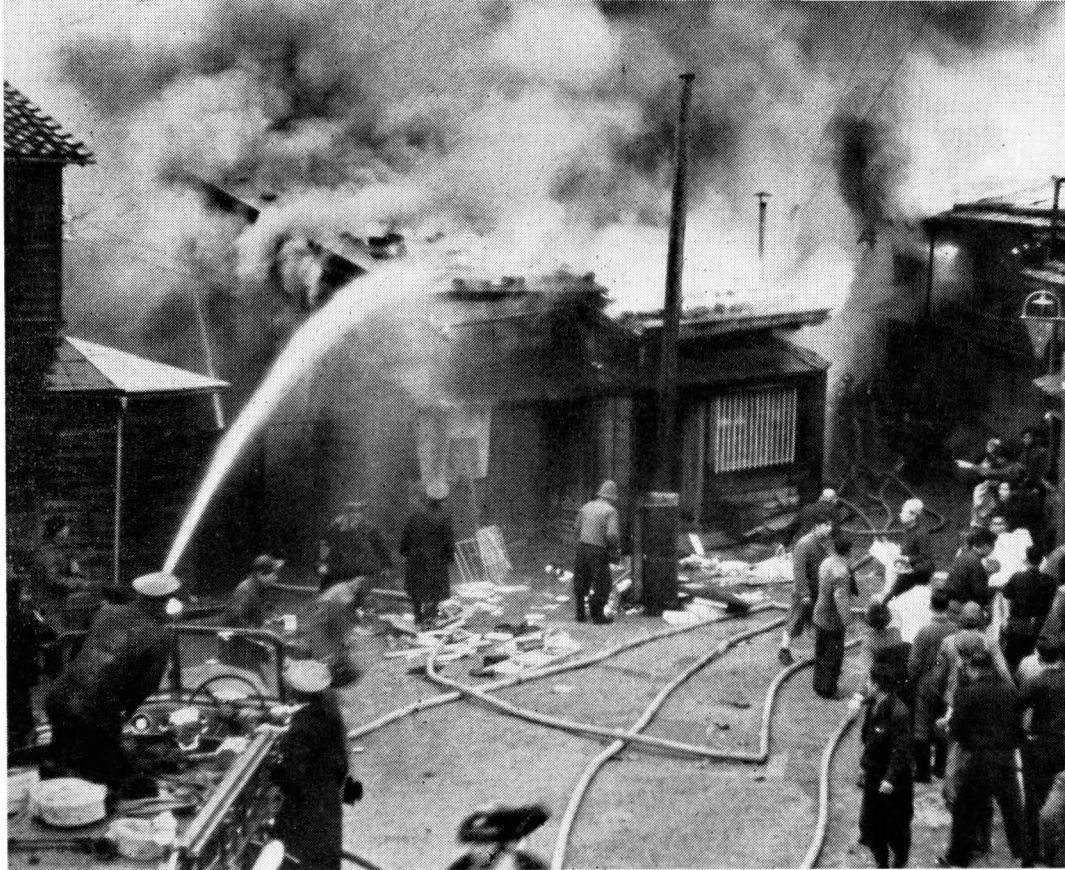
酒井章好氏 (東京)

グラフィックス F4.5 絞8 100分の1秒

D76 フジ3号 D72

詳細は本文24頁参照

主催 日本損害保険協会
後援 日本保険毎日新聞社
懸賞募集
火災写真
入選作品集



二等入選 無題

安多寿一氏(金沢)

↑

ニコンSニツコイルF2 絞2.8

二五分の一秒・ネオパンSS

D76 ベロナ2 指定

火災警報下の子供の弄火による

薄暮火災



二等入選 千歳の火事

藤井 融氏(室蘭)

オリンパス・オートマツトズイコイルF3.5

絞5.6 五十分の一秒・ネオパンSS

D76 ベロナ

←



→
 三等入選 黒煙を吐く宝塚劇場

高野浩二氏(東京)

ローライコードV型 クスナー 3.5
 絞4 二五〇分の一秒、ネオパン3S
 吉野FS3号



←
 三等入選 無題

三木幸二氏(大阪)

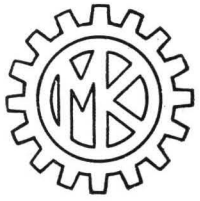
コニカII型 絞8 二五〇分の一秒
 白浜温泉の旅館火災をポート上から
 撮影。



←
 三等入選 焼跡にて

上村昇氏(大分)

ライカM3・ズミクロン絞5.6
 二十五分の一秒、ネオパンSS
 D76・ペロナ3号D72

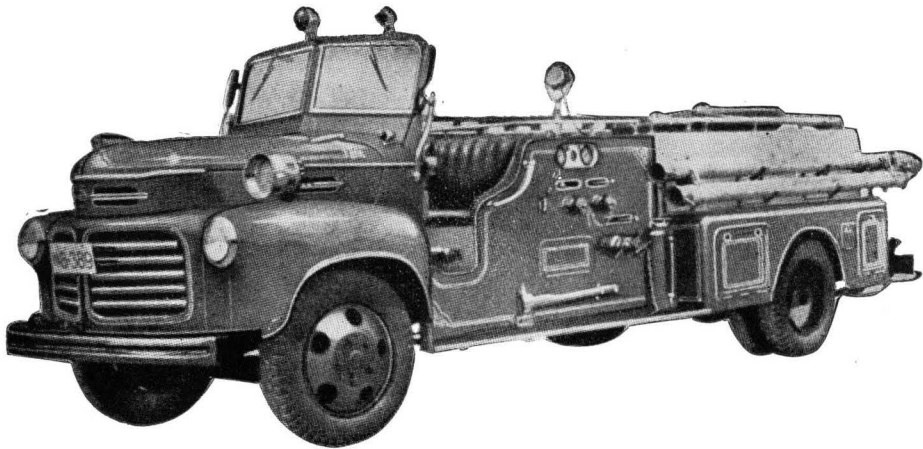


KMC速消車

損害保険協会御用命

國檢

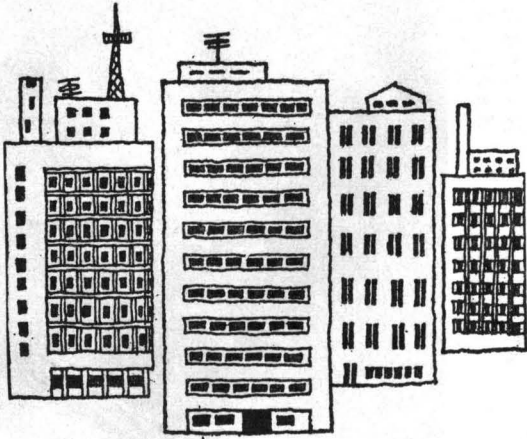
A1級合格



日本機械工業株式會社

NIHON KIKAI KOGYO CO., LTD.

本	社	東京都中央区京橋3ノ2 (片倉ビル内)	電話	東京(28)8055-8・7709番
大	阪	大阪市北区中之島7ノ10	電話	土佐堀(44)5078-9番
名	古	名古屋市中区南大津通リ6ノ3 (日新ビル内)	電話	中1371・2742番
福	岡	福岡市西堅粕2ノ281	電話	東(3)6538・6539番
仙	台	仙台市南町通リ17駅前 (日新ビル内)	電話	仙台8831番
工	場	東京都八王子市中野町3617	電話	八王子2810-4番



豫防時報

防災の角度からみた都市計画

昭和三十二年火災展望

火災初期の人の動き・2

映画を見る学童の実態・2

劇場火災

船火事の体験とその教訓

火災に際して放射性アイソトープの

放射能危険について・2

火を消さぬ消火器

漫画の消防

懸賞火災写真入選発表

表紙写真(懸賞募集三等入選作品) 高野浩二氏撮影

24 21

小古間隆蔵

11

浅見潛一

2

芦浦義雄

16

鈴木啄生

30

小鯖枯葉

26

吉田六郎

8

実戸修

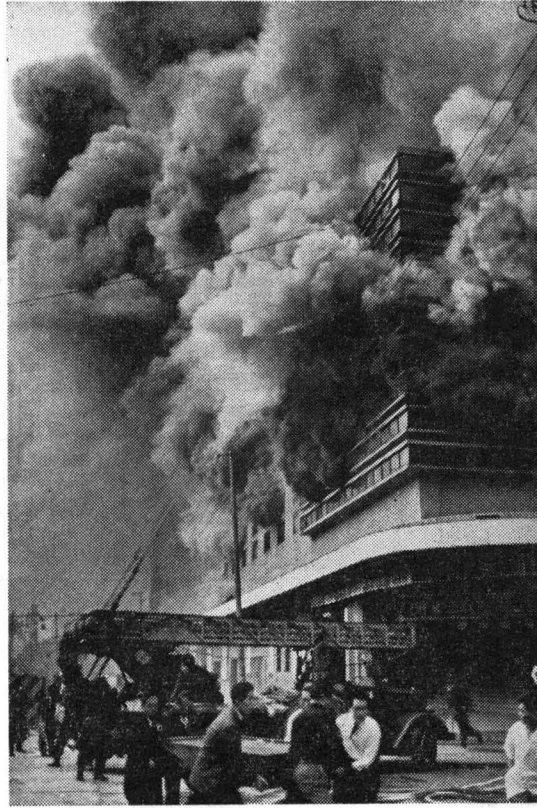
29

小原勝次郎

22

33号もくじ

カッツトは東京
宝塚劇場火災



昭和32年

火災展望

浅見 潜 一

一、年々こんな風 に増えてきた

昭和二十年に戦争が終つたとき、東京はどこへ行つても焼野原であつた。その頃元のように家が立ち並ぶ東京になるまでに、何十年位かかるだろう、と考へたものである。

そして又その頃は、も

う東京には、当分消防はいらない、警防団位でも十分だ、と云う声さえときどき聞いたものである。

吾々の中でも、眼先のきいた連中へ帰つて行つてしまひ、気のきかない者はそれ等の様子をみて、只々驚きの眼を見張つて許りいたのであつた。それが十三年経つた今日、当時吾々の、予想することも出来ない様な建物が、次から次と出来てきて、もう都心部には、空地らしい空地は殆どないと云つてよい。

それが最近では都心部だけでなく、戦前には所謂郊外農村地帯と云はれていた地域にまで、どしどし住宅が延びて行く傾向にある。

その昔、練馬大根の産地として有名であつた練馬区などは、今毎月五千軒位づつの、建築申請書が出されていると云はれている。

こうして東京は、毎年どんどんと膨れ上つてきている。家が出来れば、人の動き、荷物の動きの増えるのは当然で、バス路線なども、どんな郊外え郊外えと伸びつつある。

人家が増へれば豆腐屋も出来よう、蕎麦屋も出来たであろう、又惣

菜屋も繁昌するに相違ないが、それ等の新しい町には、所謂都市の施設としてのガス水道のないのが通例で、従つて消火栓などもないのである。人が住めば煮炊をする。ガスがないので薪で飯を炊く、炭で飯を炊く、火種を絶やすとお茶も飲めなくなるので、一日中練炭を起して置く、こう云う住宅の集団地では、中には火の不始末をする家も出来てきて、火災を起すのである。

今試みに、昭和二十三年自治体消防の形になつてからの、東京の火災件数、損害額、焼失坪数等を示すと、第一表の様になり、逐年増加の線を辿つている。

この表をみると、昭和二十三年には、二、〇二五件だつた火災発生が、年と共に増えて来て、昭和三十一年には遂に五千件を突破し、昨年は更に二万件増えて、五、二四六件になつてしまつている。

この調子で上昇して行くと、昭和四十三年頃には、火災一万件と云う事にもなり兼ねないのである。火災が一万件と云うことだけのことならそう驚くこともないであろうが、これをよく考えてみると、同一消防署

第一表 火災状況

年 別	火災件数	増加率%	焼失坪数	損害見積額	前年との比較	死者	傷者
昭和23年	2,025		30,644	862,706,335		19	285
24	2,307	13.9	33,044	1,561,141,705	+ 698,435,370	19	545
25	2,542	10.1	29,161	1,249,809,618	- 311,332,087	23	397
26	2,865	12.7	25,460	1,458,808,503	+ 208,998,885	39	338
27	3,164	10.4	22,846	1,336,746,740	- 122,061,763	15	431
28	3,892	23.0	26,397	1,796,895,296	+ 460,148,556	21	578
29	4,290	10.2	28,501	2,041,966,953	+ 245,071,657	44	591
30	4,682	9.1	34,556	2,531,540,719	+ 489,573,766	66	737
31	5,045	7.7	28,238	2,548,729,079	+ 17,188,360	48	893
32	5,246	3.9	34,564	3,478,841,793	+ 930,112,714	46	1,052

の管内に、同時に二つの火災が発生したと仮定すると、そのどちらかの火災は、数分間或は十数分間は放任火災となる恐れが出てくるのであつて、従つて大火災となる恐れも十分予測されるのである。

然しそれも、消防力が今の状態のままと云う仮定の上に立つての場合であるから、その様な状況になれば、消防の強化と云う問題となり、このままではないであろうが、仮に今の消防の配備状態のまま、その時代を迎えたとしたら、それこそ東京には大火災はないなどと云つてはいられないのである。又この表で、火災損害額をみると、昭和二十七年までは、増えたり減つたりしているが、それからは増える一方で、昨年は遂に三十五億に垂々とする、莫大なる損害を示している。それではその火災はどの区に多いかと云う

と、第二表の様になり、太田区が三百八十六件で第一位となつている。尚この表の外にどの行政区にも属さない水面上の火災が、二十六件ある。これは主に舟の火災であるが、この表からは除外してあるので御了承を得たいのである。

更にこれを人口十万人に対する出火率でみると、第二表下欄にある様な数字となるのである。

この出火率でみると、都心部である千代田区、中央区、港区が高率になつてゐるのは、面白い現象である。どうしてこう云う率になるかは、深く研究もしていないが、これを深く調べてみたら、非常に面白い答が出てきそうな気がしてならない。

出火率で案外高い数字の出ている台東区、荒川区の様な所は、家内工業の多い地域であり、工場としての形態で作業をしているのではなく、住宅の一部を改造して、家族が力を合せて、手工業の様な仕事をしている場所の多い為の影響ではなからうか。

二、これを原因別にみると

原因の中では、毎年のことではあるが煙草が第一位で、六七三件となつている。これは煙草を吸う人の数が非常に多いと云うことも、理由の重要な事であり、更に煙草の火位と思つて何処にでも棄てられていることも、理由の一つとして上げなくてはならない。ところがこの馬鹿にして何処にでも棄てられている煙草の火が、この様な莫大な数の火災を出している。

終戦直後、喫いかけの煙草を灰皿の縁に置くと、そのまま立消えてしまつた記憶を煙草喫いの人はみな経験しているであろうが、今の煙草には、そうしたことは殆どなくなつてゐる。それは煙草には、この頃助燃剤が入つている模様で、分析の結果にも出てきている。

従つて紙類、綿類、藁等の比較的に着火し易い物に、煙草の火を接して置くと出火する危険があるのである。もつとも厳密には、その着火物の質や乾燥度等に左右されることが大きく、そう簡単なことではないのであるが、着火の可能性が非常に大きくなつてきていると云うことだけは、云い得ると思う。

昔から火災發生の大小は、火を使
う機會の大小に正比例すると云はれ
ている様に、煙草による火種は、正
に天文学的の数字である。

専売公社で聞く処によると、東京
で消費される煙草の数は、次の様に
なつてゐるとのことである。

昭和三十一年

一一一億四一八五万一〇〇〇本

昭和三十一年

一一二億四二九三万四〇〇〇本

この数からみると、煙草火災を起
すものは、この中の正に九牛の一毛
ではあるが、それでも尚火災原因の
第一に立つてゐるのである。

その次は、マツチ、煙突の順にな
つてゐるが、煙突火災を更に分けて
みると、亀裂、破損、構造不備の順
になつてゐる。

煙突火災は、四季を通じてみると
春と秋に多く、四月と十月が多い様
に思はれる。これはこの頃が、風が
変わる時季に当り、又比較的風も強い
ので、こんな結果になるのではない
だろうか。

一日を単位として更にこれを調べ
てみると、一日の中には、三つの山
のあることもわかる。即ち朝の六時

から七時頃が第一の山、午前十一時
から午後四時頃までの第二の山、
更に午後の七時から八時か九時頃ま
での第三の山である。

第一の山は朝の炊事のとときの煙突
火災、第二の山は工場食糧品製造等
の業務上に使用してゐたと思はれる
ものであり、第三の山は、一般家庭
の炊事後のものや、風呂場の煙突か
ら出火してゐるものの様に思はれ
る。

石油コンロの火災は、一昨年に比
較して、百件以上もの著しい減少と
なつてゐる。これは一昨年からは始
まつてゐる、当庁の検定制度の効果が、
表はれてきたものと、些か自負して
いるのであるが、それと共に、一般
の人の石油コンロについての知識が
序々に向上してきてゐる証差とも思
う。これについても、四、五年前に
余りにも石油コンロの火災が多いの
で、当庁としても、この火災の防止
に懸命の運動を行なつてきたのが、
漸く効果が出てきたものと、これも
又自負を感じざるを得ない。

それでも未だ未だ東京の中には、
石油コンロを使つてゐる家庭は多
く、特に郊外では、殆どがこれによ

つて炊事をしてゐるのが実状であ
る。東京都経済局の調査によれば、
昨年都内で消費された石油の量は、
実に十六万キロリットルを越してい
るそうである。この石油は、農業
用、工業用、船舶用としても、相当
量使用されてはゐると思うが、この
石油コンロに使用されてゐるもの
の方が、遙かに多いのではあるまいか。

木炭コンロの火災は、その年の気
候に影響することが非常に大きいこ
とである。例えば落火跳火の様なこと
があつても、比較的に温度の高いと
きには、なかなか着火し難いが、極
度に乾燥してゐる様なときには、す
ぐ着火するし、又一度燃焼を始める
と發生する温度も高いので、それだ
け延焼して行く速度も、危険も高い
のである。

電気コンロの火災の殆んどは、正
しい使い方をしてなかつた場合に多
く、その一番多いのは、炊事用の六
〇〇W位のを、炬燵に入れて使
つて付け忘れたもの等に多い。

この様な火災を、よくよく調査し
てみると、そう云う使い方をした人
でも、そうしたことが危険であると
云うことは、みなよく知つてゐるの

第二表

区別	出火件数	人口一〇万に 対する出火率
大田区	三八六	六〇・七
港区	二九五	一一五・七五
世田ヶ谷区	二九一	五〇・八八
台東区	二八七	九五・一七
足立区	二八三	七八・九
品川区	二六四	六八・一
新宿区	二六二	七一・七五
江東区	二五九	八四・〇四
中央区	二五八	一五八・〇八
荒川区	二四四	九二・八四
北区	二三五	六三・一
墨田区	二三〇	七三・六
杉並区	二二九	五二・六二
千代田区	二二四	一七七・一四
葛飾区	二二〇	六五・二
渋谷区	二〇八	八二・二五
板橋区	一八九	五三・五
文京区	一七七	七二・七四
豊島区	一七五	五五・二
江戸川区	一五九	五七・九
中野区	一四五	四七・二
目黒区	一一三	四一・九一
練馬区	一〇七	四六・八

第三表 昭和32年度における火災原因について

(総件数 5,246 件)

発火源	32年度件数	比率	31年度件数	比率
1 たばこ	673件	12.8%	568件	11.3%
2 マツチ	568件	11.0%	404件	8.0%
3 煙突	321件	6.1%	288件	5.7%
4 石油こんろ	290件	5.5%	398件	7.9%
5 木炭こんろ	192件	3.6%	192件	3.8%
6 不明火	190件	3.6%	151件	3.0%
7 電気こんろ	180件	3.4%	180件	3.6%
8 消炭と取灰	147件	2.8%	119件	2.4%
9 焚火	146件	2.8%	152件	3.0%
10 ガスこんろ	131件	2.5%	95件	1.9%
11 こたつ	107件	2.0%	144件	2.9%
12 炊事用かまど	93件	1.8%	81件	1.6%
13 風呂用かまど	84件	1.6%	73件	1.4%
14 熔接器	72件	1.4%	76件	1.5%
15 電灯スタンド	66件	1.3%	68件	1.3%
16 電気アイロン	52件	1.0%	63件	1.2%
17 コード	51件	1.0%	36件	0.7%
18 ネオン灯	48件	0.9%	28件	0.6%
19 火鉢	46件	0.9%	36件	0.7%
20 モーター	45件	0.9%	46件	0.9%
21 ローター	41件	0.8%	46件	0.9%
22 送配線	37件	0.7%	38件	0.8%
23 炭火	27件	0.5%	26件	0.5%
24 引込線	24件	0.5%	45件	0.7%
25 石油ストーブ	23件	0.4%	16件	0.3%
26 ライター	18件	0.3%	24件	0.5%
27 ラヂオ	16件	0.3%	15件	0.3%
28 燃えさし	16件	0.3%	12件	0.2%
29 ガスストーブ	15件	0.3%	15件	0.3%
30 電気こたつ	13件	0.2%	10件	0.2%

自動車火災 昭和32年度 636件 12.1% 昭和31年度 718件 14.3%

I II III IV	エンジン配線	320件	昭和32年度	エンジン配線	384件	昭和31年度
	エンジン配線	190件		エンジン配線	198件	
	エンジン配線	60件		エンジン配線	68件	
	エンジン配線	65件		エンジン配線	68件	

経過を主体としたもの	放火	112件	2.1%	昭和32年度	放火	86件	1.7%	昭和31年度
	火の疑い	269件	5.1%		火の疑い	150件	3.0%	
	火電	157件	3.0%		火電	146件	2.9%	
	火電	63件	1.2%		火電	59件	1.2%	

昭和32年度火災による死傷者の状況

死者	大人(20才以上)		小人(20才未満)		傷者
	男	女	男	女	
46	24	11	6	5	1,031

である。だから最初に使用するとき
は、実に細かに神経を使っているの
に段々と慣れてくるに従つて、この
位なら、と云う気持が段々と湧いて
来て、遂に通電状態の儘近所にお使
いに出ていつたり、近所の家に話し
に出掛けたりしている間に、出火し
てしまうのである。

火災と云うものは、種々調べてみ
ると、火気取扱のマンネリズムによ
るものが非常に多い。だから火災予
防の運動と云うものは、わかりきつ
ている様なことであり、こんな当然
なことがと思はれる様なことであつ
ても、それを繰り返し繰り返しやる
処にその要諦がある様な気がする。

その外に車輛火災がある。車輛火
災は毎年増加してきたのに、昭和三十
二年になつて、漸く減少してき
た。車輛火災では、調節不良による
逆火が一番多く、それに次いで配線
の車体部に触れたために火花を発
し、その火花が漏洩しているガソリ
ンに着火するのが多い。これらは配
線が車体に触れない様にするこ
と、送油パイプの接続部から、燃料
が漏洩しない様にして置くことが大
切である。悪道路で有名な日本で

は、毎日よく点検をしていないと、
震動によつて、パイプの付け根の緩
みは生じ勝ちなので、よくよく注意
が大切である。

東京で消費されるガソリンの量は
逐年増加する一方で、これだけ自動
車が余計に走つてゐることを証明し
てゐる。

これを参考に記すと、次の様な
る。

昭和三十年 五十四万七四四三K立

三十二年 六十七万二〇一五K立

三十二年 七〇万一五一四K立

この数字をみると毎年の増え方の
大きいのは、驚く許りである。

尚原因別にみた、昨年一昨年の関
係は、第三表に示した通りである。

三、どんな業態に多かつたか

年々火災は増えているが、それ
はどんな業態の火災が増えているか
調べてみると、一般の専用住宅が増
えているのである。

その他、豆腐屋、料理飲食店、工
場等色々な業態はあるが、その何れ
もが、増えたり減つたりして、
結果的には、そうは違はないもので

ある。東京に発生する火災の自然増
を決定付けるものは、何と云つても
一般の住宅である。

従つて火災予防の重点は、この住
宅に主力を注がなければ、到底火災
発生を増加を圧えることは出来ない
様に思う。東京に於けるそれぞれの
業態の数は、その必要な限度に於
て、それぞれ増加はしているものであ
るが、業態別の出火率と云うものは
殆ど上つてきている訳ではないので
ある。

然もその絶対数が、そう急激に増
加しているとは思はれないので、云
はば住宅火災を除いた、その他の業
態の火災と云うものは、東京ではや
ゝ定まつてゐると考えるのが至当で
ある。云い換えると、どうしても避
けられない火災、文化生活をしてい
る東京と云う都市の上に、宿命的に
起る火災の数と云う一定の限度はど
うしてもある様に思はれてならない
のである。

これは何処の都市にもあると思は
れ、そこに立地条件、都市構成の条
件、地勢等によつて、多少の差を生
じることが当然であるが、避けられ

ない火災数、と云うものは、それぞ
れの都市に各々あるのではあるまい
か。そうした数の上に、年毎の変動
を招くものは、その年の気象、経済
の動きに伴う物の移動、活用に伴う
事故である様に思う。

然しながら出火率も、例えば化学
工業の如き、化学の進歩に伴う出火
率の緩慢な上昇等はあると思はなけ
ればならない。

そう云う観点に立つと、住宅火災
は、家庭の電気或はガス等の諸器具
の進歩普及に伴い、出火率の変つて
行くことも予想されるし、住宅その
ものの絶対数も、急激に増加してい
るので、住宅火災の自然増となつ
て、数字の上に表はれてくるのであ
る。

昭和三十一年度において、東京の
全住宅数と住宅火災との比率は〇・
一四%となつて表れたが、昭和三十
三年はどんな率になるか、これを研
究して行くと面白い結果が出来そう
な気がする。

昨年中に東京に起きた火災の中か
ら業態別に上位十位までのものを抜
き出してみると、次の様になる。

防火映画シナリオ

懸賞募集

日本損害保険協会災害予防部



近年火災の発生は増加の一途をたどり、貴重な財産を日夜灰燼に帰しております。日本損害保険協会では昭和二十三年以来毎年火災の防止、火災保険のP・Rを目的として防火映画を製作し、広く一般の防火及び保険思想の普及に努力してまいりました。昭和三十三年度はよりよい映画を製作する為（内容は三巻程度にして以上の主旨にそいいうるものなら自由）下記要項によりシナリオを募集いたします。

募集要項

- 一、応募資格 どなたでも結構です。
- 二、作品の送り先 東京都千代田区神田淡路町二丁目九 損保会館内
社団法人 日本損害保険協会災害予防部
- 三、メ 切 昭和三十三年五月三十一日迄
- 四、審査 当協会災害予防部審査委員会
- 五、発表 六月末日 保険毎日新聞及日本保険新聞並に予防時報（当協会発行）に発表し、併せて本人に通知します。
- 六、賞金 入選作品 一等 一編 五万円
二等 二編 各二万五千元

応募上の御注意

- 作品は未発表のもの（一般誌、その他に掲載、亦は掲載の予定でないもの）
- 応募編数に制限はありません。
- 入選作品の著作権は日本損害保険協会に属します。
- 応募作品は返却いたしません。
- 応募作品はシナリオ梗概を付し四百字詰原稿用紙を使用（五〇枚程度）、必ず住所・氏名・年齢・職業を記入して下さい。

順位 業態別 出火件数

- ① 一般住宅 一、一七二
- ② 料理飲食業 二〇三
- ③ アパート、共同住宅 一六四
- ④ 東京電力関係 一一八
- ⑤ 建築業 八八
- ⑥ 鉄製品の塗装業 七四
- ⑦ 印刷業 七三
- ⑧ 寮、寄宿舎 六〇
- ⑨ 公衆浴場 五八
- ⑩ パン及菓子製造業 五六

書いてみると、長くなるので省略するが、ここに書いた様な業態の所は、その順序の入れ交るようなことはあつても、毎年上位の十五位ぐらゐまでの中には、何れも入るものであると思はれる。

初めに書いた様に、東京の火災は此のところ数年間、年と共に四百件位づつ増加してきたが、昨年は二百件増加で止つたのは喜ぶべきことではあるが、その二百件は住宅火災であつて、その他の業態の火災は、増えたのもあり、減つたのもあつて、差引きでそう変化はなかつたのである。

東京の昨年中の全火災件数は実に四、二四六件の多き上つたが、その中で住宅火災は、一、一七二件となつており、更にその他に住宅附属物の二三〇件と云うものもあるのである。

住宅火災について、もつともつと注目すべきであると、つくづく考えさせられるのである。（終）

（筆者は東京消防庁予防部調査課長）

尚これに次ぐものとして、文房具屋、パン菓子小売屋、旅館、洗濯屋、自動車修理業、の順序に出火している。

これらのものを、出火場所、原因、出火の様態等を

船火事

の体験とその教訓



吉田六郎

私の乗つていた貨物船A号がボンベイのヴィクトリアドックを出帆したのが一九五六年五月一日午前九時であつた。

波静かなアラビヤ海の航海が二日半も続いたろうか、五月四日午前二時四〇分私は無気味な非常ベルによつて夢を破られた。

「四番ハツチ火災、甲板員は全員集合して下さい」という非常放送に身仕度を整えてデツキに出る。

日頃から危険であると考えていた硝酸の甲板積付近から白煙が上つている。然し何処が燃えているのか分らない。困つたことになつたと思つている間に、幹部が続々飛出して来る。船長が船医に四番ハツチと通路の間にある防火戸の目張りをするよう命じている。

幸い私の手許にはM新聞の友人が託してくれた英字新聞が多数あつたので糊と共に小脇にかかえて現場に行く。事務員のI君と三人で目張作業にとりかかつたが、相当の煙が噴出して来る。次第に呼吸が困難になるのを感じタオルでマスクをしながら作業を続ける。ふと戦時中の防空演習が思い出されたがそんな感傷にふけつてゐる時ではない。

誰かが味噌々々と叫んで味噌の手配をする。古くから味噌は土蔵扉の目塗りに使用されて来ているのである。私にはこの着想は浮かんで来なかつたが、これが一応煙の漏出を止めることが出来た。

デツキでは甲板員がベンチレーターのカバー、注水、硝酸ドラム缶の投捨作業を行つてゐる。

三時二〇分炭酸ガス(三〇キロ)五一本、次いで二〇本が注入された。これで一応鎮火するのではないかと云う大きな期待を一同持つ。本船には吸煙式自動火災報知装置と炭酸ガス消火装置が設備されていたのである。

午前四時三〇分パンにコーヒーマシンの夜食が出てほつと一息入れる。

五時、甲板に酸素吸入式と送気式防煙マスクが持出され船匠のT君が着装してゐる。どうする気なのだろう。勿論出火現場の確認に行く気なのであるが、私にはそんな馬鹿なことがという憤りの気持がおこつて来るのをどうすることも出来なかつた。

半袖のシャツを着て、生れてからマスクなどを着装したことがないと思われる者が、どうして出火現場の確認などに船艙に入つて行かれよう。彼を死地に追いやるようなものではないか。私は云い知れぬ不満をいだきながらそつと着装の点検をしてやる。密着してゐない、これでは一酸化炭素にやられてしまうことは疑う余地はない。併し私はただのパツセンデヤーに過ぎない。この非常事態に無暗に口出しすべきではないと思つたが士官のT君に「彼はマスクの着装法を知らない様だから充分点検してあげないと危険ですよ」と注意をする。

一方送気式マスクに至つては操作方法説明書(英文)をデツキの上で懐中電灯の明りを頼りに見ている。出港後一度も消防、避難訓練をやらぬことと思ひ合わせて不安な気持ちになる。どういふ理由か分らないが

船匠T君の現場確認は中止され私は
ほつとした。

午後二時三〇分士官のK氏が酸素
吸入式マスクに身をかためて船艙に
入つて行く。決死隊の出発を思わせ
る悲壮なものがあつた。然し船匠が
やるよりはよろしい。やはりこうい
う重要任務は士官がやるべきであ
る。

酸素が不足して五々六分出て来
る。午後四時士官二名が再び現場点
検に入つたが約八分出て来た。吸
入式は酸素の不足、送気式は送気管
長の不足によつて共に目的を達しな
かつたのである。

一時火災温度は、低下の傾向を示
したが夕刻から再び上昇を始める。
残る炭酸ガスは二〇本である。

出火点と思われるデツキに穴をあ
け、ここから炭酸ガスの局所注入を
行つてはという提案があり、事の重
大さに七時から約一時間の幹部会議
が開かれた後八時三〇分ドリルで甲
板に穴をあけここから炭酸ガス六
本、次いで一一時に二・五ガロンの
軽便泡沫消火液が八本分注入され
た。炭酸ガスの投入総数合計一二〇
本に達し残なし。……

以上は出火当日の日誌の一節であ
る。私は一昨午渡英の途中九日間に
亘る貴重な船火事を体験する機会を
得た。船火事特に船艙の火災は陸上
火災とその趣を異にしている面もあ
るが又一面、地下室乃至耐火構造倉
庫の火災に類似している面も多々あ
るので、その間の処置なり対策には
防災上幾多の教訓となるものも多
い。そこで、その後如何なる経過を
たどつたかそのあとをたどつてみよ
う。

五日
午前五時甲板温度 六二度
〃一二時甲板温度 八〇度
この間に機関部用の炭酸ガス一六
本を注入する。

午後六時三〇分 アデン港入港
午後八時 炭酸ガス九〇本来着
午後一〇時より六日午前四時まで
六時間にこの九〇本を投入(一時
間に一五本)

六日
午前一〇時三〇分淡水二四〇噸補
給を受く。
午後二時 炭酸ガス三〇本来着
この三〇本を効果的に使用するた
めに穴をあけたパイプを焼けてい

る貨物にボーリングし、これに局
所注入する方法も提案されたが使
用はされなかつた。

午後四時三〇分 一五本注入
午後九時三〇分 一五本注入
七日
炭酸ガス一二本補給あり、この地
の供給力も底をついて来たようであ
る。

午後六々七時の間、幹部会議があ
り全員による徹底的な密封作業実
施の決定を見た。
午後七時から九時三〇分まで約二
時間半に亘つてパテ・ペイントま
で持出され密封作業が行われた。

八日
午前七時三〇分東廻りの僚船H号
より炭酸ガス四〇本の補給を受く
午後七時現地より炭酸ガス一三本
の補給を受く。

九日
午後三時カイロより空輸の炭酸ガ
ス六四本(二〇キロ)が到着。
一〇日
第二次空輸分六四本とチャードシ
た二七本を持って午後五時ポート
スーダンに向け出港。

一一日

翌日のポートスーダン入港に備え
午後一時より約三時間消火に関す
る打合せが行われた。船側はいよ
いよ同港で注水による消火を決意
した模様である。打合せの内容は
部外者である私には知る由もない
が概ね次の如きものであつたと思
われる。

- ① 水濡損防止の為極力淡水による
消火に努める。
- ② 消火栓三本を用意する。
- ③ 消火用非常梯子を取り付ける。
- ④ 泡沫消火器九本消火弾三〇個を
用意する。
- ⑤ 各人は長袖のシャツを着用し、
帽子、タオルを携行する。
- ⑥ デツキカバールを準備する。
- ⑦ 小型消防ポンプを用意する。
- ⑧ 各室は凡て閉鎖する。
- ⑨ 残留炭酸ガスの検知には安全ラ
ンプ、又は小鳥を使用する。
- ⑩ 船艙の照明には五〇〇W、カー
ゴランプを主力とし、八〇Wの
携帯ランプを併用する。

一二日
前日の計画に基づいて諸準備が進
められた。
正午ポートスーダン入港、海岸よ
り二五〇米の地点に投錨。

消防艇サンガネブ号来援、一〇〇噸の淡水槽付、ポンプは四〇馬力消防士八名である。

現地消防士が物々しくホースを延長して待機する。黒人消防士の持つている筒先が噴霧ノズルであつたのが印象的であつた。

午後二時全員注視のうちに四番へツチがあげられたが煙も殆どなく一同安心すると同時に一寸出足をくじかれた形であつた。

ここで、船側はバリケードをくづし出火点の確認を主張したが現地損害査定人が日曜日であることを理由に月曜日まで現場の保存を強く主張、これが打開のため現地側と船側の会議が開かれた。この間来援の消防艇は撤収をはじめている。

私は、久し振りで解放された気持ちになり入浴を楽しんでいる時再び非常ベルによつて浴槽から飛出してみると物すごい煙である。

一応完全に鎮火したかにみえた火災が新しい空気と炭酸ガスとが置き替えられるに及んで再燃焼を始めたのである。時は午後三時五〇分。

予め準備されていた消火栓と消防艇のホースが再延長され極めて困難な消火作業が始まつた。現地土人の

消防隊長は防煙マスクを着装しているが筒先係は無防護である。煙に巻かれてあとすだりするのを隊長に追いかえされている。船長は煙の中にあつてよく部下の指揮をしている。

私は余りにも船長が危険をおかして陣頭指揮をするのでこれは責任を感じて死ぬつもりではないかと云う心配の念が頭をかすめた。想は同じなのであろう船員の中からも船長を殺すなという声がかかつている。全く息づまるような一時間ではあつたが午後四時五〇分完全に鎮火させることが出来た。勇敢なる現地と船側の協同消火作業には、おしみなく讃辭をささげるものであるが小型消防ポンプは遂に作動しなかつた。

A号はその後十七日までポートスーダンに停泊、各種の手統をすませるスエズに向つて出帆した。以上は火災の概要であるが火災の経過から問題を抽出して見よう。

1原因 ①硝酸の漏出：当初皆の考へた原因ではあつたがその後点検の結果これが原因ではないことは明らかになつた。

②荷役の煙草の吸殻
③ヒマシ油の自然発火
この②③の原因は何れとも判定が

つかないままでいることであらう。註 火災を起した船艙には原毛、洋紙、ヒマシ油、缶詰等が積込まれていた。

2 教訓

- ① 強酸化性の危険品を甲板積する場合には先ずビニールのシートを敷き、その上に砂を置いて納置すること。砂のみでは危険である。
- ② 自動火災報知装置は常時作動するよう指導と点検を強化すること。
- ③ 荷積に際しては、点検と消火活動を容易ならしめるよう一定の通路を確保すること。
- ④ 防火戸、その他の目張り用具を常備しておくこと。
- ⑤ 本船の場合幅五種七種のセロテープがあつたら、密封作業は極めて容易であつたと考えられる。
- ⑥ 消火栓は必ず両側に配置すること
- ⑦ 本船の場合には片側にしか設備されて居らない。
- ⑧ 消火栓並びにポンプには噴霧ノズルを併備すること。
- ⑨ 特にアプリケーションの必要が痛感された。
- ⑩ 防煙マスクを整備すること。
- ⑪ 本船の場合前述の通り二個であつたが少く共数個は常備すべきであらう。

らう。酸素ボンベは大型のもの（熔接作業用に大型のものがあ）からチャージが自由に出来る装置と訓練を積んでおくこと。

- ⑧ 可搬動力ポンプは少く共二台以上であること。
- ⑨ 本船の場合一台であり遂に作動しなかつたことは前述の通り。
- ⑩ ガス検知器を常備すること。
- ⑪ 炭酸ガスボンベ口金用のアダプターを常備すること。
- ⑫ 供給地によつて口金の大きさに相違があるから平素からアダプターの用意が望ましい。
- ⑬ 火災専用照明具を常備すること。
- ⑭ 本船の場合機関部が健在であつたから問題はなかつたが、送電停止の場合も考慮して小型発動機による発電機を有する可搬式照明装置を用意しておくことが必要であらう。
- ⑮ 平素の訓練を強化すること。
- ⑯ 勤務の交代によつて職場の編成の変わることは船ばかりではない。
- ⑰ 何事によらず一度経験したことは確信をもつて行えるものである。
- ⑱ 平素の各個訓練は勿論、団体訓練の必要な所以である。

(筆者は安田火災海上株式会社業務部長 災第一課長)

防災

の角度からみた

都市計画

小古間隆蔵

「理窟はぬきにして古今東西を通ずる歴史という歴史が殆どあらゆる災難の歴史であるという事実から見て、今後少なくとも二千年や三千年は昔からのあらゆる災難を

根気よく繰返すものと見ても大した間違いではないと思はれる。少なくともそれが一つの科学的宿命観であり得る訳である」。(岩波新書「天災と国防」一八九ページ)これは「天災は忘れた頃に来る」とつねに警告されていた寺田寅彦のことばである。災害によつて淘汰され、災害によつて錬えられ、進歩し発展してきた結果、かち得たのが今日の文明であるともいえよう。しかしながら、われわれの周囲には毎日あまりにも災害に恵まれすぎている。忘れるどころか、これでもかこれでもかという不幸なニュースに、ひとびとはマヒ

し、やがて諦観してしまい、辛うじてノイローゼになることを免れているのではあるまいか。

いかなる災害も人智を活かせば被害を最少限度に止めることができるといふことは、裏をかえせば、大事なときに人の智恵をはたらかさなかつたために、いかに災難を大きくしてしまつた場合が多いかということになる。防災科学の研究は相当に進んでいても、政府は政策にこれを取りあげず、あるいは政争の具にして抹殺し、大衆は関心を示さない。そして大事の後では科学の貧困に帰してしまわれては科学者も立つ瀬がない。もつとも、この場合貧困なのはこのような社会の仕組を、どうすれば改善できるかという答案が書けない社会科学の非力さは認めなければならぬ。

災害が都市計画を推進める

ここでは都市計画について述べるはずであるが、都市計画というものは災害とはなだ密接な関係がある。防災ということも都市計画の目的のひとつであるが、現実には災害

そのものが都市計画を促進する。災害があつてはじめて都市計画が具体化する。この本末顛倒が実際のすがたであつて、災害はまことに都市計画の育ての親ともいふべき次第なのである。一九二三年の関東大地震は今世紀世界でもつとも大きな都市をゆすぶつた地震で、東京だけでも九万九千余の死者を出し、一二万八千戸の家屋を倒し、四四万七千戸を焼いた。この大震災で東京・横浜の両大都市は大規模な復興都市計画事業を実施して大いにその都市形態の面目を一新した。昭和通や八重洲口の大通を造つたり、広く区画整理を行つて町並を改め、小公園なども数多く配置することができた。太平洋戦争では東京・大阪をはじめ一五の主要都市が被災した。被災面積にして一億八千万坪の戦災復興事業は現在まだ継続されており、本年度を含めて国費だけでも三九四億円が投入され明年度中には五大都市を除いて完了する予定であるが、これにはなお一〇三億円の事業費が見込まれている。こうして多くの戦災都市は近代化する機会に恵まれたわけである。戦後大火の災禍を喫した鳥

取・新潟をはじめ裏日本の諸都市も禍を転じて福とする都市計画を実施しつつある。

こういったかとして都市計画のためには災害もまた歓迎すべきものだというのでは毛頭ない。そのための貴い人命や財産の損失は、なんら償いのない絶対的な国力の損失、国富の減少以外の何ものでもないことは自明の理である。ただこういう機会でもない都市計画もはかばかしく実現しないのではなさないわけである。

都市計画という仕事は本来、都市という大きな地域社会がスムーズにその機能を果たすことができるようにこの社会を容れる構造物を整備することである。今日の大都市のビルディングには一棟よく一小都市の人口を収容するほどのものが沢山ある。そのビルディングでも、それが事務所用であるか、デパートであるか、ホテルであるかでその設計は根本的に違う。デパートは間仕切り壁をまったく嫌うから太い強力な柱と梁が必要であるが、貸事務所やホテルは間仕切り壁が強度を補うから柱や梁はそれほど大きくなくてすむ。人出入が

多いか少ないかで通路の広さやエレベーターの数も違うし、水道やガスの配管、電線や電話線の配線もビルの使用目的で異なるわけである。すべてはそのビル内で行われる活動がもつとも円滑にゆくように配慮するものが正しいよい設計である。機能ということが第一義である。

機能が基本であることは都市計画においても同じである。前世紀までの都市計画では装飾的な要素が高く評価されていた。都市が王侯の権威や勢力を示威するものであつた時代には当然そうあるべきものだったのである。今日の都市計画でも美観地区とか高度地区とかの地域制にはそういう要素も含まれているが、基調は機能主義にある。

ところがビルディングなら使用目的も単純であるが、都市はまことに多種の複雑な機能をもつていゝものなのでその設計は容易なものではない。第一都市となると、それは生産活動の場であると同時に消費生活の場でもある。近代的な経営では個人企業でも事業活動と居住とは分離する傾向にある。これも能率化の方法であり、機能主義のあらわれであ

る。そしてこれを整理統制するのが地域制である。工業地域・商業地域・住居地域などを指定して、それぞれその機能に即して環境を整備することによつて生産活動を能率化し、あるいは静閑な住居地を確保する方策をとることができ。機能的配置を徹底すれば生産・流通・消費の流れを結ぶ交通体系を整備することが必要となる。交通機関や道路を必要に応じて配備しなければならぬ。

住宅もまた機能化する。住宅は家族の日常生活ができるだけ楽しく過せるようにすることが本義となり、ふだんには使われない訪客や泊り客のための客室は割愛する。事実広い都市の末端まで私宅を訪問するよりは都心の集會施設を利用する方が便利である。喫茶店その他の繁盛するのは単なる遊びのためばかりではない。小住宅やアパートでは各自が庭をもつということもなくなるので、保健的な空間や子どもの遊び場も公施設として都市計画で配備しなければならぬ。

こういうふうには都市計画は、経済上からいえば生産・流通・消費・個人生活からいえば所得のための活動

と住居を中心とした消費生活、これを円滑に楽しくできるような都市という巨大な構造物を改造整備してゆくのが任務である。自動車が増え都心の交通が閉塞してしまつたり、毎日の通勤に満員電車で身心をいたずらに疲労させたり、という不都合も当然都市計画の責任であるといわなければならぬ。

この都市計画が災害ということにたいしてどんな考慮を払つてゐるか、これがこの稿の主題である。都市に起る災害にもいろいろのものが考えられる。天災にたいして人災という言葉も用いられているが、天災すなわち自然災害にしても人為的な要素が災害を大きくすることが少なくない。今日地震や台風を避ける方法はないにしても、都市が耐震構造の建築物でできていれば被害も少ないであろう。しかし、それでも水道や電気の供給が止つたり、電話が不通になつたりしたら思わぬ被害が拡大することも考えられる。

人為的な災害は人智の工夫によつて避けられるものである。といつてもこれにも不可抗力という場合もないではない。都市では人為的な災害

が少なくない。火災・煤煙・騒音・交通事故などのもつとも多く発生をみているものである。とくに火災は昔からの問題であり、今日の都市計画の上でもつとも工夫が払われていることなのでこれを中心にとりあげてみよう。

地域制と防火地域

都市計画で都市を整備して行く方法のひとつは地域制の設定である。

商業地域・工業地域・住居地域というような用途地域制は都市の内部活動の機能的配分を整備することが主眼であるが、防火地域ならびに準防火地域は都市の火災予防が第一義である。防火地域や準防火地域では建築物の構造上の耐火性や防火設備を当然要求される。商業地域では敷地面積の七割までしか建築できないがもしその商業地域が防火地域になつていればこの制限は全然はずされる。また準防火地域になつていれば八割までに緩和される。その他の用途地域のところでは敷地面積から三十平方メートル引いたものの六割しか建築できないが、防火地域が準防

火地域になつていれば構造上の耐火性の条件を備えないでも三十平方メートルの天引を緩和されるし、耐火構造にすれば七割まで建築できる。用途地域の指定されていないところは七割しか建築できないが、防火地域になつていれば八割まで建築できる。都市の相当広い部分が全体として耐火性を高めれば建築密度を高めても危険度は増大しないと見られるからである。

昭和三十二年度の「建設白書」によれば都市計画を決定している都市は八九六であるが、地域地区の決定している都市はそのうちの二五〇市三九町あわせて二八九都市であるという。その中でも防火地域制のできている都市は、防火地域のある都市七三、準防火地域のある都市一六六である。防火地域だけあつて準防火地域のないという都市は二、三しかない。設定地域の面積は、防火地域が二、〇一七ヘクタール、準防火地域は六五、五六五ヘクタールである。面積は、建設省の資料を載せている「日本都市年鑑」から計算したが、この総面積はいわば、人口三十万から五十万ぐらいの都市の市街地

面積に相当する。東京の区なら二つあわせた程度のものである。しかも防火地域の面積の半分は東京に設定されているものであり、準防火地域の同じく半分は六大都市で占めている。防火地域制は東京をはじめ大都市に比較的広く設定されているが、防火地域は東京・大阪に次いで横浜が、準防火地域では東京に次いで名古屋が大きい面積をもっている。大阪府の都市のように用途地域制は整備しているも防火地域制のほとんどないところもあれば、静岡県下の都市のように前者があまり決定していないでも防火地域制が各市にできているところもある。

防火地域制ばかりでなく、用途地域の住居地域には空地地区というものがある。これは住居地域における敷地面積にたいする建築制限をいっそう強化するもので、その制限には第一種から第九種までの段階がある。空地地区は、住居地域のうちでも建築密度をできるだけ低くおさえて、閑静なよい住居地を確保する趣旨のもので、住居環境にそぐわない用途の建築をできるだけ排除してよい住居地を保持してゆこうする住居

専用地区と相似た目的のものである。空地地区を設けている都市は二〇にすぎないが、そのうち一二は東京をはじめその周辺の都市である。周辺都市も地方の小都市と同じく水道の普及や消防力の充実において欠けているところも少なくない現状からみて、建築密度の低い緑地に準ずる地域が存することは防災上の見地からも消極的ではあるが相当な効果をもつものと考えられる。

街路・公園と市街地造成

都市計画の第二の重要な方法は都市の公共施設を配置することである。公共施設のうちでも防災的考慮ともつとも関連のあるのは街路と公園であろう。街路計画は都市計画の第一歩である。家並と街路というのもはまず都市的な表現である。自然にできた家並と街路を整形してゆることが都市計画の第一段階であつた。ほかに何もやつていない小都市の都市計画でも街路計画だけはあつた。地域地区の計画があれば地域地区内の交通ならび地域地区間の交通が街路によつて有機的に結びつけら

れてはじめて機能的に分化した都市の活動が一体化する。大都市では軌道や高速鉄道によつて交通系統はいつそう高度化する。地域地区が設定されていなくても都市にはおのづから社会機能の地域的分化は行われている。いづれにせよ、分化した機能を有機的に結合して都市活動を能率的に行えるようにするのが街路計画であり、交通機関の配置計画である。

その街路は平素の都市活動が能率的にできるようにするばかりでなく、その防災的効果も考慮に入れて計画されるべきものである。戦災復興都市計画では五十メートルとか百メートルというような幅員の街路を都心部にとり入れた都市もあるが、広い道路は火災の延焼を止める火除地になり、大火を抑止することもできる。火災のみならずいかなる非常の際にも避難路や避難所として役立つ。そしてこれは公園体系が整備していればいつそう有効に作用するわけである。

その公園体系がまことに貧弱なのがわが国の都市の現状である。今日の都市生活では、広大な自然公園や

美しい庭園的な公園を持つていることを誇るよりも、市民のだれもがいつでもレクリエーションの場として楽しめる公園が手近にあることが望ましい。ことに生活圏域の狭いこともたちに遊び場所を設けてやらなければならぬ。住宅が狭少化し高層化し市民各自が庭を持たないようになると公共施設としての庭や遊び場所が必要になる。大小の公園や運動場が地域的に広く配分されなければならぬ。こういう公園の計画的配置を公園体系というわけである。できれば大都市では公園と緑地帯で都市をいくつかの地域に分割するような形態ができればなお結構である。またこういう空間を十分にとれば建築物を高層化しても息のつまるような感じも緩和できるし、平面的な伸長にとりなう都市施設の不経済な配備を避けることができ、災害にたいしても安全性を高めることができる。

わが国の都市公園は五七〇都市で四、四〇〇カ所、面積にして約四、四五〇万坪であるが、市街地にある公園は約二、〇〇〇万坪で、市街地人口一人あたり〇・五三坪であると

いう。本年制定された都市公園法では住民一人あたり六平方メートル、市街地の住民一人あたり三平方メートルを設置基準とし、建設省では都市計画事業一〇カ年計画にもとづき公園整備一〇カ年事業計画をたて、二、〇〇〇万坪の都市公園を造成することを目標としている。

関東大震災のあとの東京の復興都市計画では、わが国ではじめて土地区整理を実施して、多くの小公園を産み出した。小学校建築の不燃化と小公園とは当時復興帝都の新しい景観をもたらした。大きな都市計画上の収穫であつた。最初にも述べたように今回の戦災では一一五都市が被災した。戦災復興都市計画事業の中心をなしたものはこの土地区画整理事業である。大火災の復興計画には、かならず土地区画整理を行つていける。土地区画整理は被災地でなければ実施できないというわけではないが、既成市街地を改造することはこういう機会でないとなかなか困難である。もつとも改造の必要なのは主要駅の周辺であるとか中心市街地であるのでことにむずかしい。昭和二十九年に制定された土地区画整理法

では、宅地の立体化という方法をとりにいれて、市街地の利用を高度化すると同時に不燃化をはかることができるようになった。従来は整理後配分は土地を平面的に再配分するだけで過小宅地や不均衡にたいしては金銭的に精算するほかなかつたが、新しく整理地に不燃構造の建築物を建てて各階の一部ずつを換地にあてることができるようになった。これも防災の上からもひとつの進展である。既成市街地の土地区画整理事業は十カ年計画で二、五〇〇万坪が予定されている。

近ごろはまた大都市周辺では衛星都市開発のため新しい市街地造成のための土地区画整理が行われつつある。都市当局や日本住宅公団の手によつてこれによる大規模な住宅地開発が計画的に行われている。住宅用地ばかりでなく、学校・病院・商店・工場などの施設のための用地の造成も同公団が施行できるように公団法が三十二年四月改正されたので、住宅公団はイギリスの新都市建設と同じような事業を行うようになりつつある。(イギリスの新都市は都市ごとにその建設経営を全面的に

担当する公团的組織ができてきているので、本質的には違つたものである。計画的に市街地を造成することによつて地域の機能的配分も街路網も公共施設の配置も合理的に建設できればおのずから防災的配慮も十分折込むことが可能なわけである。

都市不燃化への努力

地域制とか都市公共施設計画とか土地区画整理というような都市計画本来の手法による防災的配慮はほぼ右に挙げたようなところであるが、近來建設省当局が都市の建築物そのものに直接助成あるいは指導を行つて不燃都市を造つてゆこうとする努力も見逃してはならない。その第一は防火建築帯である。防火地域内に街路に沿つて帯状に防火建築帯を指定し、これに三階以上（増築を予定する場合は二階でもよい）の耐火建築をする場合、地下一階から地上四階まで補助金が与えられる。補助金は木造と耐火構造との標準建築費の差額にたいして地方公共団体が補助金を出すことを前提として国庫補助も行われる仕組である。これで建築

主は木造と大差のない負担で耐火構造の建築物が建てられ、こうして完成した防火建築帯は都市の重要な中心部を縦断するひとつの防火壁となつて火災の燃焼を遮断する役割を果すわけである。大火後の鳥取市でまづ実施され、防火建築帯の指定をうけた都市は六四、建設された建築帯の延長は二万メートル（指定された建築帯の総延長は五五万余メートル）となつている。建設省では、来年度からさらにこの方式を拡大して、小都市で街路の拡幅を行う際同時に不燃建築化できるように補助率を高くした特殊防火建築帯の構想も洩らしている。

このほか日本住宅公団が建設している住宅は同公団法にも規定されているように、すべて耐火構造で建てられている。また住宅金融公庫も当初から耐火構造の住宅には融資期間を長くして、不燃建築の普及を助長してきたが、三十二年度からは住宅に店舗・事務所を併存する中高層耐火建築物にも融資することとなつた。さらに公営住宅においてさえ、すでにこの中層耐火構造の併存住宅が建設されるようになってきている。

こうして戦後の住宅政策が、初期には個別的分散的にあるいは都市周辺部において建設を行つていたのにたいし、ようやく新しい市街地の大規模な開発や既成市街地の集約的利用を目的とする高層化不燃化に積極的意欲を示してきたのを見ると、その都市計画的意義、とくに防災的効果を高く評価しなければならぬ。だが以上に述べてきたように法的規正や政策の表面だけを眺めて楽観し

てはいけぬ。都市ことに大都市の発展は都心に周辺に日日絶え間なく続けられているが、そのすがたはまつたく生存競争そのもので、建築基準法を故意にか善意でか踏みにつつて進められているという事例も少なからず見受けるのである。とくに防災的見地から簡単に見過ごせないような気がするのである。
（筆者は全国市長会研究室主幹、慶応義塾大学講師）

日本損害保険協会製作 防火映画御紹介

- 損保協会災害予防部では火災予防運動の一環として防火に関する映画を毎年企画製作しており、既に次の九本が完成している。特に「街を守る子たち」は全日本P・R映画コンクールに入賞、教育映画として文部省から選定された作品である。これらの映画を学校や工場、消防署等で上映御希望の場合には無料で貸出に応じておりますから広く御利用下さい。
- 昭和24年度作品「燃えない町」 二巻
 - 25年度作品「私達の家庭防火」 二巻
 - 26年度作品「一人は万人の為に万人は一人の為に」 二巻
 - 27年度作品「音楽一家」 二巻
 - 28年度作品「工場の防火」 二巻
 - 29年度作品「街を守る子たち」 二巻
（国家消防本部並に労働省推薦）
（文部省選定）
 - 30年度作品「修学旅行」 二巻
 - 31年度作品「ともだち」 四巻
（国家消防本部推薦）
（文部省選定）
 - 32年度作品「只今勉強中」 三巻
（国家消防本部推薦）
（文部省選定）
（特別選定）

（主として十六巻版）

火災初期 の 人の動き

芦 浦 義 雄

その 2

三、火災通報状況(続)

ただ電話の欠陥は火災発見当事者の心理状態として、どうしても昂奮しているのうまうま一九にかからぬことがあるし、また通話内容も上つてしまつて必要事項(何区、何町、何番地、火元建物名、主要目標)が伝えられない場合があることである。これを補う方法としてテープレ

コーダー利用の盗難火災非常通報器のようにボタンを押すことによつて自動的に一一九に通話する仕組みの使用されている。火災報知機はまたこの点を解決した最も単純な動作によつてその目的を達するものである。

通報に要する時間の短縮の問題は今後とも課題として残されるものがあるが、現在実施せられている諸方

法の所要時間は火災報知機であれば火災発見箇所からその設置位置に到着する迄の時間が主で、硝子を破りボタンを押すに要する時間は計算に入れなくてもよい位のものであるから結局報知機分布が密に設けられればそれだけ時間を短縮出来ることとなる。馳付報も亦消防署迄の距離に關係するものである。諸電話の場合

は電話の位置に越く迄の時間と一一九の呼出し及び場所主要目標の通話に要する時間の合計であるが、今日迄の統計によるとそれ等に要する時間はまちまちで正確には算出できないが、別表の覚知別焼失坪数の比較が即ちその所要時間の比を表わすものであると考へてよいと思われる。而し乍ら実情は通報を忘れて物品の搬出或は消火等に当り、手におえなくなつて始めて消防への通報に気付く場合が非常に多く、従つて出火(この場合は必ずしも建物に着火した時間とは限らない)から発見、消防機関への通報、そして署所への出場指令がなされるまでの時間は平均して四乃至七分位であると見られてゐる。そこで通話時間の短縮の具体的対策としては、かかる施設問題以

外にもその対象物内に於ける消防計画の樹立と訓練が重要となつてくる。即ち通報責任者を定めて確実迅速に通報せしめることとしたい。

東京に於ける火災は例えば昭和31年は五、〇四五件であつたが、実際に通報を受けた件数は七、八〇六件に及び、而も実火災についてはその一件一件につき實際は数箇所から各種の通報が重複して入つてくるので通信勤務員は大重である。またこの他に誤報、悪戯の多いことは誠に残念なことで、昭和31年は誤報では電話類五六五件、報知機四一件、馳付二一件に及び、誤報は己を得ないとしても悪戯では電話類六八件、報知機はなんと一、二二二件に達し之等のための出場ポンプその他の車輛台数は実に七、八四一台、出場人員四一、二七九人に及び甚しい無駄を費し、時として時を同じうする実火災に対する消防行動に齟齬を来す場合もあるのだ、特に悪戯者の反省と悪戯防止への近隣者の協力が強く求められる所以である。

四、初期消火の状況

火災を発見した場合は消防機関え

全国初期消火器具使用状況調 (国消統計による)

調査対象		酸アルカリ消火器	泡消火器	四塩炭素消火器	一塩炭素消火器	一塩炭素消火器	炭酸ガス消火器	酸スポンジ消火器	水ポンプ消火器	槽付消火器	粉消火器	消専バケツ	火用バケツ	炭酸水消火器	ガス槽器	その他消火器	不明
市部	平均率%	0.5	7.7	2.5	0.1	0.8	0.2	0.3	10.8	0.1	40	37					
	昭29	19,797	105	1,465	518	20	158	38	46	2,782	15	7,216	7,434				
	30	23,218	102	1,740	543	19	168	49	65	2,239	13	9,890	8,390				
	31	26,347	177	2,150	685	35	195	60	122	2,424	17	10,841	9,641				
郡部	平均率%	0.4	1.5	0.5	0.2	0.4	0.7	0.3	1.9	0.1	51.9	25					
	昭29	8,703	31	117	43	9	32	75	17	1,640	8	3,915	2,186				
	30	6,729	15	82	29	4	21	46	14	1,334	10	3,497	1,677				
	31	6,965	34	140	38	25	41	41	28	1,291	8	3,569	1,750				

対象別初期消火手段別調べ (東京23区内)

手段 対象	バケツ		消火器		土砂		その他		初期消火 不従事	自然鎮火	摘要	
	成功	不成功	成功	不成功	成功	不成功	成功	不成功				
一般建築	昭和31年	1,466	510	755	64	119		261	21	207	14	3,617件について調査
	32 (6月迄)	1,004	304	467	61	53	9	85	10	139	12	2,144 "
特殊建築	31	223	66	279	32	18	—	43	4	42	10	717 "
	32 (6月迄)	126	23	177	27	14	2	15	2	31	4	421 "
車輛船舶	31	48	29	357	46	146	35	30	30	11		732 "
	32 (6月迄)	28	2	159	18	44	19	15	4	7	2	298 "

の通報、構内への警報、と同時に初期消火を行うのが通常であるが、実際は別表の如く10%は初期消火を行わないもの、また幸に自然鎮火したものである。消火を行ったものの内訳は全火災について見ると50%がバケツ注水、25%位が消火器を使用している。これを建築火災のみについて見た場合、その内でも条例十条で示す特殊建築のみの場合、車輛船舶のみの場合等に分けて見ると表の示す如く後者程消火器使用が多くその特性を表わしている。

初期消火、飛火警戒に水が有効である場合が多いのでバケツと水の用意は当然必要なことで、前述の如く突火災に於てもバケツ注水が盛に行われているが、現今では消火器でなければ消火し得ない種類の火災が多くなつて来たので一般に消火器の整備の要に迫られている。即ち油その他の化学薬品火災、水では感電危険を伴ふ電気火災等がそれで、この外高所或は注水しにくい狭い場所等の火災の消火には、斧、斧等の破壊器具とポンプ式の消火器が必要となつて来る。

戦前には消火器に依存し過ぎて消防機関への通報を行わず却つて大事にしてしまう場合や、いざ鎌倉の場合に有効に機能を発揮し得ない消火器が多かつたので、専門家の間でも一般に消火器不用論すらあつたが戦争中の諸体験及び戦後の進駐軍の影響もあつて、今日では寧ろそのような欠陥を克服解決することに努力を払い、大いに消火器を使いこなすようにすべきであると云う積極論に転換して、現在では消防関係法令によつて強制設置の扱いを受ける対象が多く示されるに至つている状態である。

消火器の整備についての諸条件は消防法、火災予防条例、危険物取締条例、運輸関係法令等に定められている通りであるが、先づ国家規格に適合する消火器のうちから設置箇所の目的物に適する種類の消火器を選定し、且つその場所の条件に必要とする単位数の消火器容量並びに筒数を

満たす必要がある。消火器の種類には色々あるが全国統計によると火災に際し使用された消火器の種類とその多寡の率は表の如くである。そしてそのような率で現実的に消火器が全国に設備されていると見做すことも出来る。

この傾向は市部と郡部とによつて異なることはまた当然である。消火器の設置に当つては所要消火単位数を計算して行ふようになっては、一消火単位というのは初期に於てその目的物火災を消火するに足る水又は葉量を持つ消火器を云うのであるが、消火器の種類様式等によつて夫々異なる。之等消火器は不時使用に際して直にその機械的機能なり、化学的性能を充分に發揮し得るように整備しなければならぬ。また消火器はこのように火災初期の対策用として絶対外れない効果を期待されているだけに、公安的責任を担う重要器材であると云える。従つてそれは直ちに動員出来るような位置に、容易に識別し得る状態に設備しなければならぬし、誰もがその使用の時期、起動の方法、消火のこつ、消火直後の注意事項等を熟知し何時

でも使用出来る状態にまで訓練しなければならぬ性質のものである。

消防機関の行う予防査察の結果の指摘事項中24%は消火器に関するもので単位不足、選択の誤り、設置位置不良、機能性能の不良、使用方法の未知等で、之等の不良事項は即実火災の際に前記のような消火器不効果となつて表われるものである。東京に於ける初期消火不効果の傾向は別表の示す如き状態で各手段とも何がしかの失敗を喫している。この表はまたバケツだけでなく消火器をも備えた方がよいことをも示しているが、バケツの方が消火器より不効果率が大きい、また小火で消し止め得る率も亦バケツより消火器の方が大きいからである。

消火栓の利用は東京では昭和30年7件、31年13件、32年6月迄11件で漸増を示し、また不成功率は約15%に及んでいるが、なお整備並びに訓練の必要を示している。またスプリンクラーの設置件数は少いので奏功例も未だ少ない。

本格的火掛りに要する時間は放水開始後早い場合で数分から長時間のものは拾数時間以上を要するが、消火器による初期の消火は液さえ発射され、無駄なく火点に集中されるならば消火に要する時間は殆んどかからない、寧ろ消火器の所定位置に趣きそ

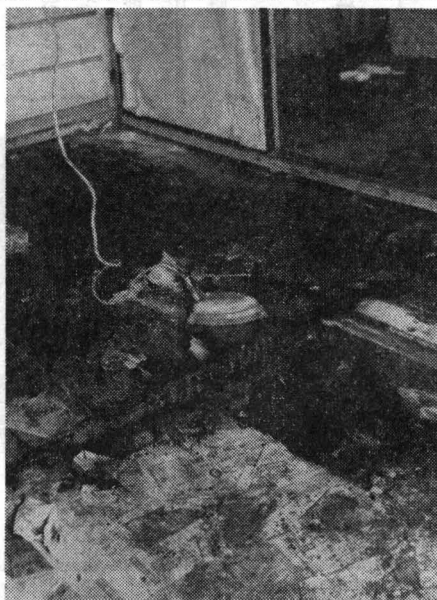
初期消火不効果内訳調べ（東京23区内）

手段、損害		対 象	建 築 火 災				車 輛 火 災			
			昭 和 31 年		32年6月迄		昭 和 31 年		32年6月迄	
バケツ	全	焼	219	37%	148	38.6%	8	5.7%		
	半	焼	130	22%	88	23%	18	13%	1	2.3%
	小	火	161	27%	68	17.7%	3	2.1%	1	2.3%
消火器	全	焼	43	7.2%	34	8.8%	13	9.3%	5	11.6%
	半	焼	16	2.7%	23	6%	25	18%	7	16.3%
	小	火	5	0.8%	4	1%	8	5.7%	6	14.1%
土砂	全	焼			7	1.8%	14	10%	1	2.3%
	半	焼			2	0.5%	10	7%	8	18.6%
	小	火					11	8%	10	23.1%
その他	全	焼	13	2.2%	7	1.8%	8	5.7%	1	2.3%
	半	焼	4	0.7%	3	0.8%	10	7%		
	小	火	4	0.7%			12	8.5%	3	7.1%
計			595	100%	384	100%	140	100%	43	100%

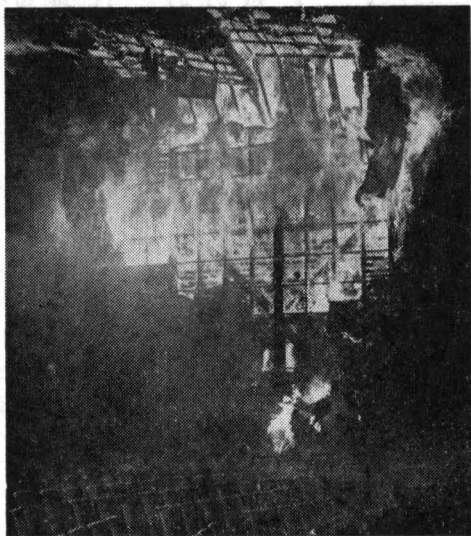
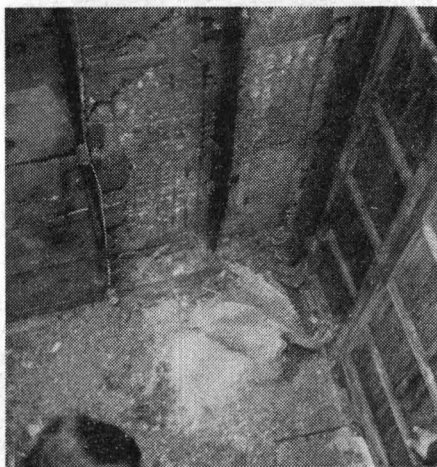
早期発見で小火で消しとめた屋内火災



同上



早期発見で小火で消しとめた屋外火災



発見が遅れ自衛消防では手がつけられなくなつた映画館火災

これから火点までの搬送に要する往復所要時間の方が影響する。もし消火に時間がかかるとすれば、その初期消火行為そのものが既に時期を失っているか、またその目的物に不適当な消火器であるか、或は薬液不足のため一部消火した部分が逆に再燃する結果となつている場合等であり、初期消火不成功で本格的炎

上を許さざるを得ないこととなる。実火災に於ける不成功率の未だ高いことは前述諸条件が満たされていない証拠であるので今後はこの点について一層の注意が払われ施策される必要を感じる。また仮りに消火器の使用が不成功に帰しても次の手段として消火栓その他の器材の威力を発揮すべきチャンスであるのでこれ等をうまく活用して火災を喰止め消防機関にバトンを渡すべきである。人為的消火行為が到底許されない危険な場所、或は絶対に間に合わない場所等に於ては自動消火装置を設けて

之に備えなければなるまい。この場合その装置に水、噴霧、化学薬品等の何れを選ぶかは消火器の場合と同様その目的物如何によつて定まつてくる。

五、まとめ

火災現場に見る罹災者の半狂乱の姿には思わず目をそむけざるを得ないし、また新学期間際のことであつたが着のみのままに片手に手提かばん、もう片方に新品の赤いランドセルを吊げて飛び出してくる父親を見かけたが思わずホロリとさせられ

たこともある。これも発見通報が手遅れとなつた為である。一般には通報、初期消火をよそに荷物の搬出に我を忘れるのが通例であるが、結果は誠にみじめなものとなる。

前述の如く発見、通報、初期消火の夫々の必要性は云うに及ばず、その方策手段また解り易い事柄であるが、通報、初期消火、避難等の実践に当つては建物用途、火災の様相及

び居合せるであろう人員如何によつては、同時処置の定石通りの動きが取り得ずどうしても応用動作として、突差にその順位判断をしつつ断行しなければならぬ困難さがある。

従つて事前に各種条件を想定して施設整備を行うと共に、管理面に於ける人員配置、勤務方法の工夫との総合的対策によつて具体的解決を図らなければまだ不十分である。

「予防時報」発行の主旨について

戦前から世界有数の火災国として知られた我国は今日なお一日平均約一億円に近い財貨を灰にしております。戦後我国損害保険会社は積極的に火災損害の減を計り以つて疲弊した我国経済の自立と国力の回復推進の急務なる事に着目し日本損害保険協会に災害予防部を新設年々その火災収入保険料の一部を醸出して全国諸都市への消防ポンプ車、火災報知機の寄贈、専門講師の派遣による都市巡回防火講演会の開催、防火映画の作製、業態別工場防火運動、各種防火資料、パンフレットの作製配布等を行つております。

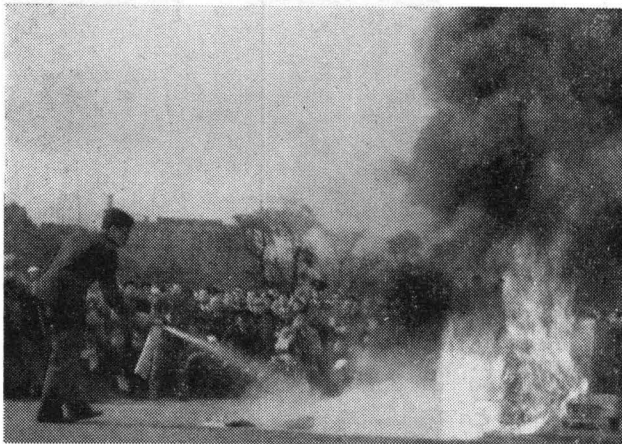
本誌もかゝる事業の一環として発行しているものであり、広く御活用願えれば幸に存じます。

特に人命安全を考えるならば早期発見と然るべき避難設備と誘導が必要で、設備としては先づ自動火災感知設備の役割が大となる。

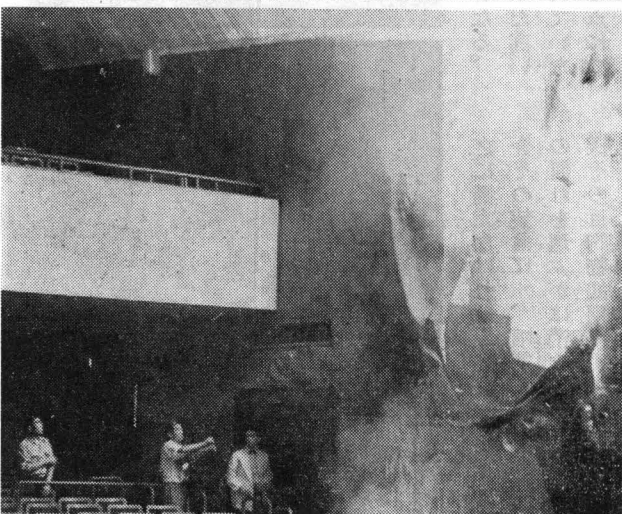
このように火災拡大防止の重要段階である初期に於ける方策は特に火災国日本に於ては真剣に取組む価値のある問題であるが、之等は各自の自衛力にまたなければならぬの

で、これがため各事業所毎、各世帯毎に関係者の最大の関心の寄せられんことを希うものである。(完)

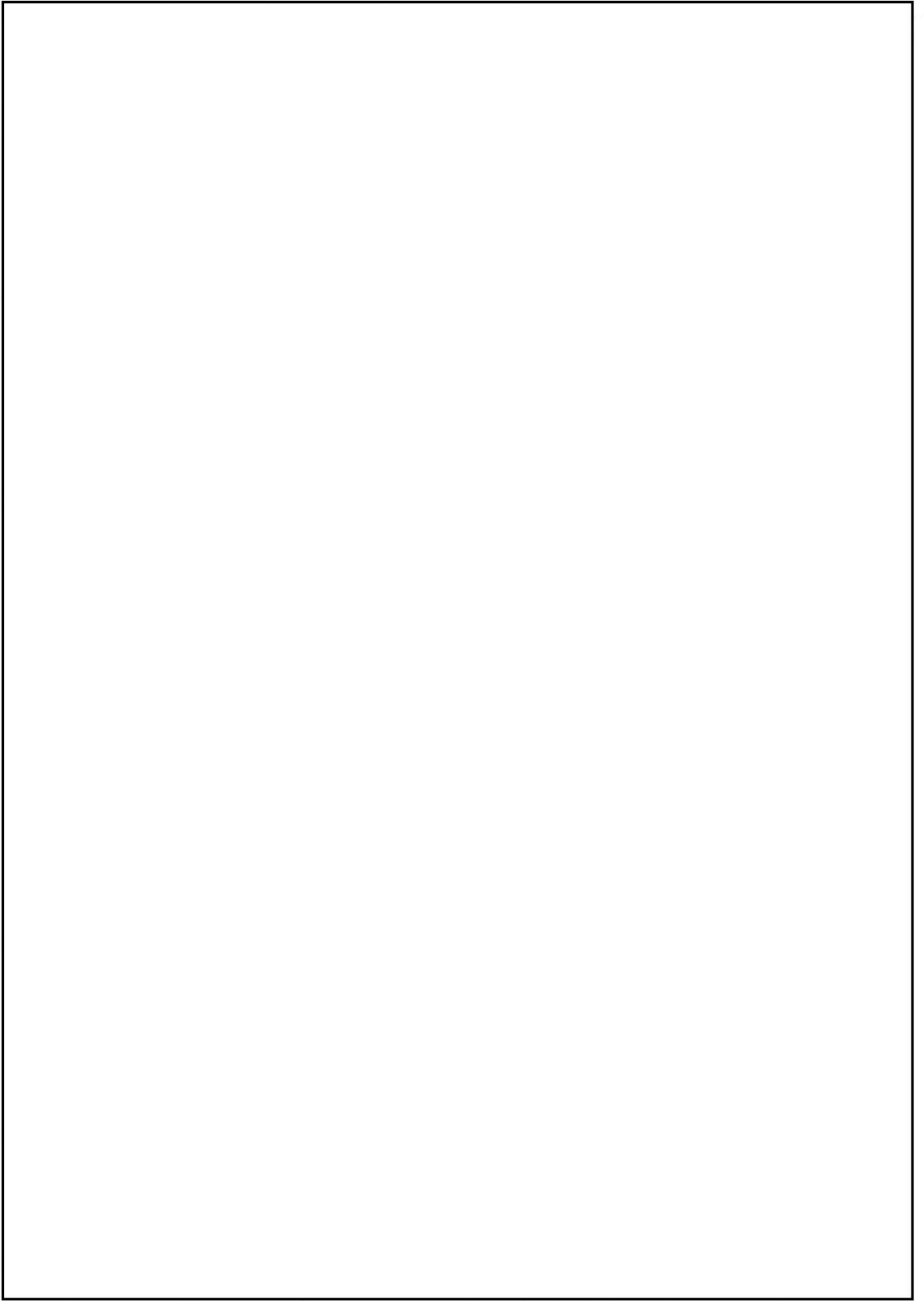
(三三、一〇、二二)
(筆者は東京消防庁予防部予防課長)



消火器による消火訓練



消火器で立向つたが既に初期消火の時機を失した火災



火

を消さぬ 消火器

小原勝次郎

……予防査察に行つて……

しばらく前の話であるが、或る発電会社の支社を予防査察した時のこと、其処に設置された消火器が全部炭酸ガス式のものだつたので、支社長に對して

「この消火器はこちらで購入されたのですか？」と尋ねた処、「本社で購入して送られたもの」との返事。

「こちらは事務系統の仕事のみであり、発電機一台ある訳ぢやない。然も木造建築物なのですからこの消火器は余り役に立ちませんよ」

驚いた支社長さん
「そんな訳では困るから是非実験をやつて見せて下さい」

其の処私も、炭酸ガス消火器は大分以前に五十センチ四方程のタンクに入れた油の火焰を消火する実験を一回見ただけで、一般可燃物に對しては無効だろう位の知識のみで、實際に失敗した例は見たことも、聞いたこともない。只、市条例で一般可燃物に不適とされているのが唯一の根拠と言う極めて頼りないものである。万一実験の結果消火に成功した

らハツキリ言い切つた手前、引くに引かれず心臓の鼓動のみいたずらに高めたのだつた。

……消火器の実験……

表の広場へ、鉋屑や廃材を積んで油をかけ用意万端整つて、その周囲に大勢の職員が円陣を作つて見物している。同行した予防係の消防士長も思いなしか心配そうな顔をしている。消防の本職が、不細工な消し方のために消えなかつたでは理屈にならない。

結局その消防士長に消火器を持たせて、使用方法に従つて、風上からできるだけ接近してガスを放出するように説明した上で、愈々鉋屑に点火した。忽ち一米以上に火焰が昇る。頃はよし、と炎に向つて炭酸ガスを放出する。ガスの當つた附近の炎はパツと抑えられて、一瞬黒くなる。次へ廻つてパツ……そして又次へ……処がどうだろう。最初に消した部分は、再び盛んに炎を揚げてい

るではないか。

かくして二廻り程する内にガスを放出し尽して終り。火焰の方は最初

……消火器のよろめき……

昨年末、中央の有力新聞の社会面に、「マーケット街の防火対策」として各戸毎に消火器を備えた事が写真入りで報ぜられていた。

よく見ると、その消火器は四塩化炭素式のものである。

「これだから困るんだ」

購入する側の無智の為か、業者の売らんかな主義の故か、詳かでないが、消火器を火除の神符と同様に考

ことに呆れ返るばかりか、この記事を書き、写真を載せた人のセンスさえ疑いたくなつた。

今更言う迄もないが、消火器には、酸アルカリ、泡、四塩化炭素、炭酸ガス、ドライケミカル、一塩化一臭化メタン等々、数多くの種類があり、然も皆それぞれの特長を有しているが、一朝有事の際にその特長に基いて使用しなかつたならば、ものの役に立たぬどころか、返つて逆効果を招いて災害を更に大きくすることを知っている人の極めて少いことを甚だ遺憾に思う。

にも増して炎々と燃え盛つて、結局バケツ注水で鎮火となつた。

以上のことは、本社が発電会社なので、電気火災用の炭酸ガス消火器を大量に購入し、それをその儘各支社に送り届けた結果の喜劇だが、若しこれが本物の火災だつたら何と厄介なことになつたことだろう。

……火には水……

何と言つても、泣く子に乳、火には水である。殊に一般木造建築物の場合水に勝る消火方法はないが、火災を発見すると同時に直ぐ間に合わせることに、高い所へも注水し得ること等の条件に合致せしめる為には、当然消火器に頼らなくてはならない。そこで問題は、消火器の性能即ち内容薬剤の適合性に絞つて考えられなくてはならない。とは言つても、油脂類、電気及び発火性化学薬品などのような厄介千万な発火物があつて、水ではどうにも処置できない場合もある。然し消火の目標が木造建築物であるならば、それに対応する性能を有する消火器を設置すべきは当然である。

……燃焼の三要素……

可燃物、温度、空気を燃焼の三要素と呼ばれ、この内の一つを除くことが消火の原理とされている。その消火方法を最も合理的に、然も簡単に奏効せしめるように考案されたのが消火器である。

前記の炭酸ガス式は言う迄もなく空気(酸素)を遮断する窒息消火を目的としているのだから、空気が自由に流通する場所での効果を望む事が間違つている。注水したのでは、感電の危険があるとか、モートルその他機械類を損傷する虞れのある時、又は室内での油火災のような場合にのみ利用されるべきで例え電気火災であつても、屋内配線のショートや、電熱器具の過熱等で建造物が燃えているならば勿論水に如くはないだろう。

最初に記した四塩化炭素式も、放出された薬液が不燃性ガスになつて拡散して窒息消火を行う原理は、炭酸ガス式と全く同様である。

……小使さんだけの防火……

以上でどのような個所に、どんな消火器が適しているか自然判つて来ると思うが、更に言及するならば、その建物内に居住又は勤務する人達全員が、消火器の置場所と使用方法を充分知悉して頂きたい。我々が査察に行つて消火設備のことを質問すると、庶務で聞いて呉れという。庶務では用度と呼ばなければ判

らない。用度係では小使さんに尋ねて漸く設置場所は判つたが、使い方は一人も知らなかつたでは何の為の消火器かと言いたくなる。
防火ポスターや、標語で火は消えない。あく迄も実情に即した防火対策を希つて止まない次第である。
(筆者は飯田市消防署予防係長)

住宅公団の試作住宅

日本住宅公団では、鉄筋コンクリートによる耐火造建築のほか、比較的簡易且つ低廉な不燃住宅を普及せしむるため、日本ブロック建築協会(会長内藤多伸氏)及び日本軽量鉄骨建築協会(会長石井桂氏)に対し試作住宅の研究、建設を委託した。敷地は東京都杉並区中瀬町一六六の予定で、ここにブロック造十四坪二戸、軽量鉄骨造十四坪四戸のテラスハウスを建設し、設計、施工、居住性、耐久性等に付て検討し、将来の標準設計に必要な資料を求めんとするものである。委託を受けた両協会では、夫れぞれ委員会を設けて調査、研究を開始し、従来これらの建築の弱所、欠点とされていたところを改善の上、標準的不燃中流住宅の試作に着手せられることになつたが、都市不燃化促進のため、その成果が期待せられる。
(不燃化同盟理事玉木一介氏寄稿)

(一等より三等入選作品
までは口絵写真に集録)

入選作品16点決定

日本損害保険協会

災害予防部

昨春秋以来広く募集中でありました協会の火災現場写真懸賞募集はこの程二月末日を以つて了切り、三月四日審査委員会を開催、厳正な審査の結果、下記の各氏作品が入選決定致しました。
題材を「火災現場」と限定しました為取材のチャンスを得るのが仲々難かしかつた模様で応募数は約四十点程度に止まりましたが各作品共、現場の生々しい緊迫した雰囲気をとらえた力作が多く、応募者も一般市民の方、学生、消防関係者、損保関係者と幅広い層に行き渡つておりました。
本誌上をかりまして応募された各位に本催しに御協力いただきました関係各位に対し厚く謝意を表する次第です。

入選作品

一等 一点 二〇、〇〇〇円

〃 大火におののく〃

東京都新宿区柏木二の二二二 酒井章好氏
会社員(三三才)

二等 二点 各一〇、〇〇〇円宛

〃 千歳の火事〃

北海道室蘭市栄町四三 藤井 融氏
石川県金沢市東堀川町八 安多寿一氏
消防吏員(五〇才)

三等 三点 各五、〇〇〇円宛

〃 黒煙を吐く宝塚劇場〃

東京都練馬区貫井町三七〇の一 羽生浩様方
高野浩二氏

無題

大阪市天王寺区東雲町一の〇 三木幸二氏
学生(一九才)

〃 焼跡にて〃

大分市南新町二五七の一 二五 上村 昇氏
(会社員)

入選佳作 各一、〇〇〇円宛 一〇点

〃 出火〃

岡崎市美合町並松の一 二愛知県追進農場公舎内
佐口岳郎氏(公務員四才)

無題

豊橋市多米町蟬川三の二 岡野 昇氏(会社員三才)

〃 猛火に挑む〃

青森市鍛冶町二〇の三 鳴海弘氏(地方公務員三才)

無題(作品第一)

石川県金沢市東堀川町八 安多寿一氏(消防吏員三才)

無題(作品第二)

同 右 (同 右)

〃 火災現場〃

東京都練馬区関町六の二七九 佐伯寅市氏(消防職員四才)

無題

北海道江別市萩ヶ丘二〇 森 光義氏(市吏員四才)

〃 火事だ〃

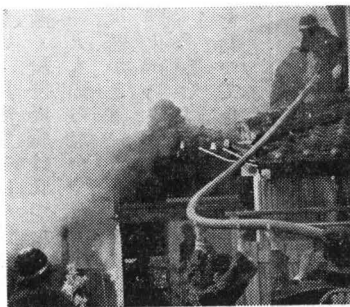
横浜市保土ヶ谷区坂本町六七 岩本準一氏(会社員三才)

〃 四日市大協石油火災〃

名古屋千種区自由ヶ丘一の毛 本田英雄氏(損保会社社員三才)

〃 炎上〃

浦和市上木崎五一九 尾野 勇氏(会社員四才)



佳作 無題 ニコン 絞5.6 1/125
ネオパンSS 月光二号 フィルタ
1UV D76 D72 岡野 昇氏



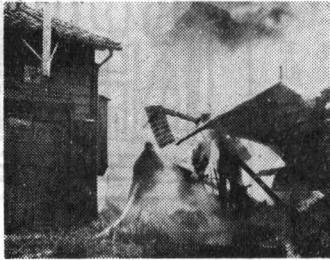
佳作「出火」 オリンパス 35 S
絞8 1/130 フジSS ベロナF13
フィルターナシ 佐口岳郎氏



佳作「無題」ニコンS ニツコール
F2 絞り開放 1/50 ネオパンSS
ペロナ 指定現像液
安多寿一氏



佳作「猛火に挑む」オリンパス35
S Dズイコー 絞5.6 1/50
ネオパンSS D76 コレクター
月光V3 鳴海弘氏



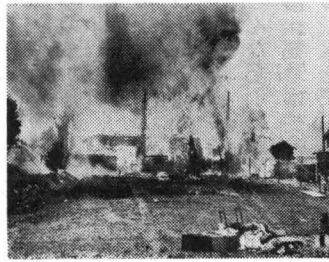
佳作「火災現場」昭和三〇年七月十
八日午後一時五十分晴天撮影 マミ
ヤシックスのみりS F5.6 1/50
東京練馬区内に発生した火災
佐伯寅市氏



佳作「無題」ニコンS ニツコール
F2 絞8 1/100 ネオパンSS
D76 ペロナ2 指定液
安多寿一氏



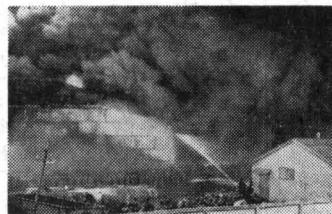
佳作「火事だ」ニコンS2 絞8
1/250 ネオパンSS D76 フジプロ
F2 岩本準一氏



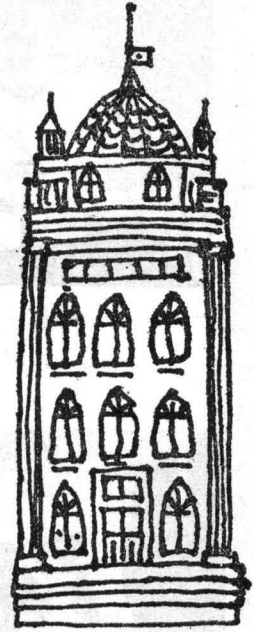
佳作「無題」キヤノン2B F1.8
ネオパンSS 絞8 1/125
森光義氏



佳作「炎上」ニコンS2 F1.8 絞2.8
1/30 トライX
尾野勇氏



佳作「四日市大協石油火災」昭和二
十九年十月十六日 ミノルタレフ
絞8 1/25
本田英雄氏



火	劇
災	場

小 鯖 枯 葉

子供の頃、兄貴につれられて浅草の吾妻座と云う芝居小屋へ行つた事がある。

まだ、小学校へも入らない頃の事なので、出演者がだれで、出し物が何んだか、ぜんぜんおぼえがない。勿論、この吾妻座と云う小屋の名前もあとから聞いたものだ。

ただ花道に、ホースが引いてあつた事、舞台一面が本物の火事の様になつて、見ていてこわかつた事、その火事場で、さむらいが力んでいた事などが、おぼろけながら頭に残っている。

先日東京宝塚劇場の火事のあつた直後、昔、吾妻座へ一つしよに行つた兄貴の嫁さんに聞いてみたら、婆さん得意

になつて

「あれは細川の血だるまと云う狂言で先代の沢村訥子がやつたのだよ」と云う話し出しから、あの火事は、舞台で本物の火事をやつたとか、本物の火事だから前の方のお客さんはあつくて見ていられなくなつて後の方の席へ避難したとか、舞台のまわりにトタンを張つたとか、薦の頭が毎日劇場へつめきりでホースを舞台まで持つて行つて、もし間違いが起きたらすぐ消せる用意をしていたとか、さかんにまくしたててきかせてくれた。

この狂言は大川友右衛門と云う忠義なおさむらいが主家の大事な宝物を火事の中から持ち出したが、途中どうにもならなくなつて、腹を切つてその中へおしこみ、宝物を守つたと云うすさまじい狂言だそうだ。

明治三十二年に発行された風俗画報にこんな記事が載つていた。

「偕此狂言は従来演劇上に見ざる真の猛火を使用し宝蔵焼失の場に左団次が活壮の特色を以て衣服は焦げ、身体は爛れ剛忍能く朱印の入りし箱を携えて猛火の中に割腹して、以て之を完するの状を演じ

さながら場中をして一陣の熾火に葬むられたとするの感あらしめ、大に看客に喝采せられし。

此失火の作用は化学的を応用し塩酸を大道具に施し、又亀甲紙を張り、石炭油を滌ぎ、之に火を点ず、猛火の吹出る器械はブリキにて作り猪口様の内に西洋燭を点じ管を装して猪口の中に松脂の粉末を入れ管の端より吹けば松脂燃え出で自在に発火するの状を現わす衣服の燃るは吉田ホリチを糊にて貼け火を点ずる等にて決して傷火の憂は無きものとす、又樹木の燃るは烟花の枝を応用せるもの云々」とあつた。これは歌舞伎座で先々代の左団次がやつたときのことだが、大正大震災の前に吾妻座でやつた仕かけも大同小異のものだつたろう。

この度の東宝の火事が小さな吹ボヤから出たんだそうだが、大正の初期とは云え、あんな小さな舞台でよく、あんな大それた事をやつたものだ、又取締のお役人もよくやらせたものだど憾心(寒心)させられた。

昨年四月二日に明治座が焼けたが、こいつの原因は、舞台左手四階

トランス室のオートトランス二次側配線の短絡によるものだったそうだが、これも観客がいなかったからよかつたようなもの、お客さんが入っていたらとてつもない事になつたらう。

先年、八百屋お七をちよつと調べた事があつたが、八百屋お七と云えば高愛至上主義者の放火娘であることはだれでも知つていることだが、こいつが芝居になるとどんな狂言者が書いても火事と関係のないものにしてある。

おかしな事だが、だんだん調べているうちに、劇場は火事と非常に仲が悪く、火事は大きらいと云う事が

わかつた。そんなこんなでお七さんの芝居まで火事をオミットしてしまつたのだ。

先程も一寸申上げた明治座にしろ明治五年喜祥座として創立発足してから、

- 明治十二年 久松座と改称
- 〃 十三年 類焼のため全焼
- 〃 十八年 再建千歳座として発足
- 〃 二三年 出火のため全焼
- 〃 二六年 明治座として再建発足
- 大正 八年 大谷松竹座と改称
- 〃 十二年 震災のため全焼
- 昭和 三年 再建

〃 二〇年 戦災のため全焼

〃 二五年 明治座として再発足

〃 三二年四月二日 全焼

と、こんな火事の歴史をもつてゐる。

劇場の事故と云えば、その昔歌舞伎の教祖様、出雲のお国が三条の河原か四条の河原で芝居をしたときにさじきがくずれて死傷数百と云う様な話しをきいたことはあるが、これに関する資料をもつていないので、手元にある資料で昔からの劇場火災を調べて見よう。

伊藤敏郎先生著の「日本演劇史」に於ては偶然の事故によりて寧ろ劇場をして減少する

の傾きを生じたり。

其は即ち明暦三年の大火にして正月十八日辰の刻、本郷なる本妙寺より火を發し、翌日は更に小石川と麴町とに失火あり、この三方より江戸の市街を延焼して四座の大劇場及び見世物小屋は大かた、烏有に歸したりき。

されば政府は、これを機会として歌舞伎、操り、その他の見世物小屋を建つるものは從來必ず上下の堺町、及び木挽町の五丁目と六丁目とに限るべしと命ぜしが、この火災の為め終に閉場せる芝居及び見世物は十一座に及び、漸く再興を出願せるは歌舞伎の劇場四座（猿若、都、村山、山村）その他の小劇場八座、操りカラクリの見世物五座及び土人形、子供手踊り二座なりきという。

以て如何に芝居町の荒涼に飯したるかを知るべし。云々

明暦三年正月十八日から十九日にかけて江戸の大火即ち、明暦の大火で江戸の各座は焼失してしまつた。ようやく再興したが元禄十一年にまた堺町の中村座が近所から出た火に類焼し、続いて同十六年十一月二十

三日には例の元祿の大震火災等々、芝居小屋の火事が非常に多かつた。後藤慶三先生著の「日本劇場史」の中の「劇場年表」から劇場火災の分を抜萃して見ると

寛永十六年十月二十一日
芝居小屋より出火此の時一同引
払い

寛永十七年十月二十一日
芝居小屋焼失

寛永十八年正月二十九日

桶町より出火歌舞伎小芝居共焼失

明暦三年正月十八十九日両日

中村、市村両座焼失

元祿十一年九月

中村、市村両座焼失、十一月又

々類焼

元祿十六年十一月二十九日

中村、市村両座焼失

寛永三年正月

中村、市村両座焼失、十一月復

々類焼

寛永七年十二月

中村、市村両座焼失

享保元年正月十一日

市村、中村両座類焼

享保二年正月二十一日

三芝居類焼

宝暦六年正月十四日

中村、市村両座焼失
宝暦十年二月六日

両座焼失

宝暦十一年九月十七日

市村座類焼

明和三年二月二十九日

梅幸油見世より出火両座焼く

安永元年三月晦日

両座焼失

天明元年春

中村、市村両座類焼

天明六年春

両座焼失

文化三年三月四日

河原崎座類焼

文化三年十一月十三日

中村、市村両座焼失

文化五年正月元旦

両座焼く

文化十年十一月二十九日

両座類焼

文化十四年正月十二日

中村座、桐座焼失

文政五年五月三日

河原崎座自火にて焼失

文政八年十二月十九日

両座焼失

文政十年正月三日

両座類焼

天保元年十二月二十三日

小伝馬上町より出火両座焼失
天保五年二月七日

佐久間町より出火、中村、市村
両座類焼

天保五年二月十日

大名小路より出火森田座焼失

天保十二年十月六日

中村座桑屋より出火両座竝に操
座類焼

天保十二年十二月十八日

三座共引払を仰せ付らる。同月
晦日浅草聖天町の替地用付らる

安永元年十一月六日

三座とも類焼

安永二年十月二日

大地震にて三座とも類焼

安永五年正月九日

森田勘弥芝居より出火市村座焼
失、中村座は別条なし

万延元年八月二十七日

勘三郎芝居より出火三座焼失

元治元年四月二十二日

三丁目茶屋筑前屋より出火、三
座類焼

この様に火事と芝居はよくよく仲
が悪かつたらしい。

ついでだから芝居小屋の火事につ
いて町奉行から申渡書と云うのがあ
るから一寸のせて見よう。

これは文化六年正月朔日暮六つ時

日本橋佐内町より出火して市村、中
村両座焼失の際出されたもので

勘三郎
羽左エ門

代 弥兵衛

勘 弥兵衛

外家主組合六人

其方共儀享保九年十月申言上帳に
も記し置き候如く大家向土屋根造
りに致し興行仕り候処、いつとな
く柿葺に致候に付火移り易く、度
々焼失されあり、既に当正月朔日
佐内町より出火の節は之又高根故
諸向より火移り及大火相成候に付
今度は本所、深川の内明地之所替
可申付の処、渡世統の物共多く難
儀をも可致に付、今般は格別の訳
を以て差置候に付、屋根高外家竝
に致瓦家根又は荒木甲土を以て塗
揚上を漆喰に致、外より火移り不
申様致興行可致候

文化六己年二月八日

この時代の劇場火災を取扱つて岡
本綺堂先生が「天保演劇史」という
戯曲を書いて戦前歌舞伎座で先代の
左団次の遠山左衛門尉、猿之助の小
屋番で上演したことがあるが、これ
らは別の機会に又勉強させていた
だこう。

(筆者は東京消防庁予防部指導課勤務)

火災

に際して

放射性アイソトープの放射能危険について

その2

国際消防長協会著
穴戸修・抄訳

放射性物質に対する安全の原則

放射性物質の取扱以上の危険性について、今迄に知られているものを、重要さの順序に従つて分類すれば次の様になる。

- (1) 放射性物質の体内への沈着。
- (2) 全身をガンマー線にさらすこと

消防戦闘に於て、放射能危険を最小にするために取られる防禦手段の根本的な目的は

- (1) 飲食や吸い込み、或いはその他の方法によつて、放射性物質が体内に入るのを防ぐこと。
- (2) 消防士が外部からの放射線を多

量に受けるのを防ぐこと。

一般的に云つて(1)の目的を達するためには、適当な呼吸用具を使い、すり傷その他負傷を敏速に手当することが必要である。(2)の目的を達するには消防士が放射線にさらされている時間を最小にし、又、消防士と放射線の根源との間の距離を出来るだけ大きくすることが必要である。何故なら放射線の強さは光線と同じく、その根源からの距離の二乗に反比例するからである。

消防士に対する非常時の処置

次の暫定的(将来の発達が予想される)な安全規則は、放射性物質に出会う恐れのある消防士のために、国際消防長協会の「消防戦闘に於ける放射線危険に関する委員会」によつて作られたものである。

(1) 放射性アイソトープに出会う恐れのある区域を管轄している消防当局は、前もつて次のような防火と消防に関する総ての適切な資料を利用し、協力を得ておかなければなら

い。

(A) 放射性アイソトープを使つたり貯蔵したりする機関の名称と位置

(B) 放射性物質の量と作業の中に含まれている相対的な危険性

(C) その建物に火災が起つた場合に、消防署に協力し案内するために、その最高幹部によつて提供され、二十四時間中何時でも利用出来る有能な放射能探知者又はその仕事に関係のある訓練された人の氏名

(D) おさまりの消防署の検査の他に、その建物を直ちに検査することと、放射性アイソトープが貯蔵又は使用される種々の場所の出口、入口の目につき易い場所に警戒の貼札を掲示することを最高幹部と計画すること。

(E) その最高幹部と共に放射線のある区域に対して十分な防火計画を立てるあらゆる可能な手段を用意することと、十分な耐火的貯蔵設備と作業施設を整えること。(以下次号)

(筆者は日本損害保険協会災害予防部調査課長)



カットは損保協会企画製作
の防火映画のシーン

映画

を見る学童の実態

鈴木 啄生

次に一年中の最も映画とのむすび
つきが多い正月はどのような
か。

(イ)表の「映画を見たもの」に現わ
れている通り全体の半数強が見てい
る。映画以外の調査項目は、前述夏
休みと同様に、映画以外の実態をも

併せ参考としたもので、そのために
その他の行楽と映画を見たものと
数は交錯している。

また(イ)表の中の行楽には、お客に
行つてごちそうになつたものも含ん
でいる。

次に(ロ)表では、高学年ほど回数を

(イ) 冬 休 み 遊 行 の 分 布 状 態

学 年 別	調 査 人 員 数	映 画 を の 見 た も の						学 校 の 式 や 神 社 の 式 や 神 社 など に 行 つ た も の							
		昭 三 年		昭 四 年		昭 五 年		昭 六 年		昭 七 年		昭 八 年			
		人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %		
一 年	三〇六	二七	四一	二七	四一	二七	四一	二七	四一	二七	四一	二七	四一	二七	四一
二 年	三六一	二七	四五	二七	四五	二七	四五	二七	四五	二七	四五	二七	四五	二七	四五
三 年	三六一	二七	五九	二七	五九	二七	五九	二七	五九	二七	五九	二七	五九	二七	五九
四 年	三三七	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三
五 年	一八六	二七	六六	二七	六六	二七	六六	二七	六六	二七	六六	二七	六六	二七	六六
六 年	一九九	二七	七三	二七	七三	二七	七三	二七	七三	二七	七三	二七	七三	二七	七三
男	一三七	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三	二七	六三
女	七八一	二七	四七	二七	四七	二七	四七	二七	四七	二七	四七	二七	四七	二七	四七
計	一六〇〇	二七	五六	二七	五六	二七	五六	二七	五六	二七	五六	二七	五六	二七	五六

(ロ) 表 何 回 位 見 た か

学 年	み た 人 数	三 回 以 上 見 た 人	割 合 %	一 年		二 年		三 年		四 年		五 年		六 年		計
				人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	人 数	割 合 %	
一 年	一三七	一四	一〇	八五	七二	二八	二〇	二二	一五	一〇	二二	一五	一〇	二二	一五	一三七
二 年	一五六	二七	一七	六一	八〇	二〇	二三	二二	一七	二二	一五	一〇	二二	一五	一三七	一五六
三 年	二二六	二九	二三	八二	七七	二三	二九	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二六
四 年	一〇六	二四	二三	六九	七一	二九	二九	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	一〇六
五 年	一一三	三〇	二三	三四	八一	一九	二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	一一三
六 年	一五八	三三	二〇	四八	七六	二四	二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	一五八
計	八〇五	一五六	一九	三七九	七六	二四	二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	八〇五

多く見ているし、女子より男子の方が多くなっている。

(V)表の延回数では、回答数のうちはつきりしているものだけをあげているので、実際にはこの数字より多くなっている。

(ニ)表では監督者なしは高学年に多くまた男子に多いが、付添者のあるのは低学年及び女子に多いことがわかる。

さて、そこで、見に行つた原因について、

(例)表を見ると、高学年では自分たちの意志で映画を見に行つており、低学年では家の人その他おとなの意志にしたがつて見に行つている。また性別にすると男子は自分の意志で、女子はおとなの意志にしたがつて行く場合が多く、全体として、映画を多く見たくなる年齢層は三年ごろからである。

(V)表は(例)表のうちの「自分が行きなかつたから」の内訳であるが、調査項目の分析がうまくゆかなかつたためにその他が多くなりすぎてしまつたが、その半数の実態はこの表から推察することが出来ると思う。
(例)表は冬やすみに見た映画の中で

好きな俳優を二名あげさせた表であるが、回答数に対しては六五%となるが、全体から見ると、四〇%位になるわけである。

俳優に対する興味は一種の流行と見られ、必ずしも固定してはいないようだし、大体四、五年ごろに俳優に対する興味が増し、六年後半から批判的になつてゆくようである。

またテレビなどの普及によつて、なじみの俳優なども多くなることであろうが、現在の調査からは(例)表に現われた通りである。

この表を一覧してわかるように男、女の好みのはつきりと出ていて、男女ともに大体同数の票を得ている俳優はごく僅かであるのも面白い。また現在の人気俳優の中でも調査からは唯一票の記入しかないものもある。

そのうちの数人をあげて見ると、小林桂樹、伊豆肇、小坂一也、津島恵子、木暮三千代、曾根四郎、越路吹雪、宇野重吉、三船敏郎、中原ひとみ、長谷川裕見子などである。これで見ると世上の人気俳優必ずしも子供に人気があるとは云えないことがわかる。

(V)表 延回数

性別	延回数					計
	人数	回数	人数	回数	回数	
男	三八三	六六九	三四八	七三二	七三二	一三三二
女	一九五	一九五	二〇五	二〇五	四〇〇	四〇〇
計	五八〇	一三六〇	五五三	九三七	一一三二	一一三二
性別	人数 <td>回数 <td>人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td></td></td>	回数 <td>人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td></td>	人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td>	回数 <td>回数 <td>回数 </td></td>	回数 <td>回数 </td>	回数
男	八	七	二八	一一	四四	一八
女	四〇	二八	一一	四四	一〇	一〇
計	四八	三五	三九	五四	五四	二八
性別	人数 <td>回数 <td>人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td></td></td>	回数 <td>人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td></td>	人数 <td>回数 <td>回数 <td>回数 </td></td></td>	回数 <td>回数 <td>回数 </td></td>	回数 <td>回数 </td>	回数
男	一〇	一八	一〇	一八	一〇	一〇
女	一〇	一八	一〇	一八	一〇	一〇
計	二〇	三六	二〇	三六	二〇	二〇

(ニ)表 誰と見に行つたか

監督者	学 年 別		男		女		計
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	
	人数	回数	人数	回数	人数	回数	
あり	二	二	二	三	一	六	二七
なし	一七	四二	五八	四四	六六	六八	一八九
友人(人)	一七	四二	五八	四四	六六	六八	一八九
割合%	一六	三〇	三五	二八	四〇	四二	三七
親その他(人)	一〇〇	一〇四	一三七	一六一	一三三	一三六	一六八
割合%	八四	七〇	六五	七二	六〇	五八	六三
計	一九	五八	七三	五七	七六	七四	一三六

(例)表は学童の映画を見る費用の出どころがどうなつて示しているものであるが、大半が家人の支払によるものであり、三割が自分の小遣や映画に行くために家人から貰つた金で支払われている。これによつて、大半は付添と共に入場しているからこのうち(例)表の「監督者とともに」の六七%及び(例)表による「うちの人と一緒に」の三八%のうちの何割かが「おとなの選定した映画」となると見ていいであろう。
本稿のはじめに述べた通りこの小学校の学区内には現在開設後一年に

なつた映画館が一つしかなく、他は周辺地区或は繁華街まで出かけるわけである。今その映画を見た場所について調査の結果は(イ)表に見る通り三分の一は地区内で、三割は周辺地区で見ていることがわかる。その他四分の一が繁華街へ行つているが、(ロ)表にある「監督者あり」の六七%のうちこの大部分が、含まれているのであろうと思われる。

なんにしても学童に一番喜ばれるのはちやんばらである。時代がいかに進歩しても人間の心の中には英雄崇拜の観念があるためか、特に学童は強いものへのあこがれを男女ともにもつている。そうした上から(イ)表はここに調査した限られた学童と云うことだけではなしに、一般的にあ

てはめることが出来るのではないかと推定して間違ひはないであらう。

例えば「丹下左膳」のように片眼片腕で、強い男と云つたものは、年令や男女の差によらず、人気があるし、娯楽映画として愉快にたのしめるもの、また悲劇として身につまされるものなど、多少パーセンテージの差はあるにしても、大体(イ)表に現われた順位が大きく変ると云うことはないであらう。

(ロ)表はどんな題名の映画を見ているか、を調べた結果、大体二〇〇種類位あがつたが、学区内映画館での上映作品を中心にして見ていることがわかる。ここにあげた作品のうち学童に推薦して見せることの出来る作品は二、三に止まつていることは

(イ) 表 単独で行きたかつた原因

性別	男(割合%)	女(割合%)	計(割合%)
かんばんを見て	五二人(二二)	五八人(三九)	一一〇人(二八)
人にきいて	三五人(一五)	二〇人(一三)	五五人(一五)
好きな俳優	三二人(一三)	一六人(一一)	四七人(一二)
その他	一一九人(五〇)	五五人(三七)	一七四人(四五)
計	一三七人	一四九人	三八六

甚だ寒心にたえないことである。

この表には十五位までを記した

(ロ) 表 なぜ見に行つたか

学年別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
自分が行人	二六	二二	八八	八八	七一	九一	二三七	一四九	五八六
きたかつたから	二三	一八	四一	五一	三九	四五	四一	三四	三八
友人にさ	六	八	一九	一三	一六	一六	五五	二三	七八
そわれた	五	六	九	八	九	八	一〇	六	八
うちの人	六六	七七	七八	五八	六六	三九	一九三	一九一	三八四
と一緒に	五八	六〇	三六	三三	三六	一九	三四	四四	三八
切符があ	一一	一〇	一二	三	一九	二九	四九	三五	八四
つたから	一〇	八	六	二	一一	一四	八	八	八
その他	五	七	一七	一一	九	二七	四二	三四	七六
割合%	四	六	八	六	五	一三	七	八	八
回答計	一一四	一二四	二二四	二四一	二七三	二八一	二二〇	二五七	六四三
割合%	五	一	一	一	一	一	一	一	一

(ハ) 表 見た映画の中で好きな俳優二名を記せ

学年別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
回答数	八二	一〇七	一五八	二二一	二〇九	二三三	三七九	三三九	七〇八
俳優名の記入数	四一	六二	九七	二〇七	八六	七〇	二五二	二二二	四六三
割合%	五	五	六	八	七	五	六	六	六

がわんわん物語は一九票、警察日記は一五票、ジャックと豆の木三票、家なき子三票と云う数字は、その裏付として充分参考にならうと思う。

と云う問い方にも問題はあがあるが、大体程度の差はあるにしても一様に面白くしてあり、高学年になると稍批判的になり、唯面白いとは答えられないため率は低下している。また

男子より女子の方がはじめから映画をえらんで見にゆく傾向があるために面白いと思う割合も多くなつてゐる。女子が映画を選んでゆくと云うことは映画に対して批判的であると云うより、女性特有の経済観念から発しているようである。

(功) 表の「映画はためになつたか」に対しては、たまたまになるとあまり考えていないようであるが、結果として面白いから見にゆくと云うわけである。そのため「ためになる」「ならぬ」と云うより、そのどちらでもないところから「その他」が多くなつてゐる。

このうち高学年では批判力がついて来ているために「ためにならない」の数を多く出している。また女子の方は、映画の種類が活劇(ちゃんばら、活劇など)や喜劇を多く出しているために、「ためにならない」と批判しているところもある。

以上各表を総合して考えて見ると、映画に対して指導性を与えないで、放任の状態であると、学童は印象的な面だけをとつて模倣し易い。

(イ) 表 どんな俳優が好きか

順位	俳優名	男	女	計
一	東千代之介	八六	二六	一一二
二	美空ひばり	七	七七	八四
三	市川右太衛門	六〇	一四	七四
四	中村錦之助	四二	二〇	六二
五	大友柳太郎	五二	四	五六
六	片岡千恵蔵	四三	一〇	五三
七	大川橋蔵	一五	三六	五一
八	高田浩吉	二六	二二	四九
九	千原しのぶ	一	三一	三二
十	長谷川一夫	一五	一三	二八
十一	松島とも子	二	二五	二七
十二	江利チエミ	〇	二五	二五
十三	高千穂ひづる	二	二三	二五
十四	伏見扇太郎	一四	六	二〇
十五	雪村いづみ	〇	一七	一七
十六	月形竜之介	一三	〇	一三

一〇票以下省略

(II) 表 映画の費用はどうして出したか

学 年 別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
自分の小遣から	六%	一二%	二二%	三三%	三〇%	二八%	二八%	一四%	二二%
家の人に貰つて	五	一一	一六	八	九	二三	一四	一二	一三
友だちが払う	三	二	四	一四	二	八	七	三	六
家の人が払う	七一	六七	五一	四一	五〇	二五	三八	六一	四八
その他	一五	八	七	一四	九	一六	一一	一〇	一一

(イ) 表 映画を見た場所

場 所	人数	割合%	場 所	
			(回 答 数)	(回 答 数)
学区内	一〇七八	一〇〇	一	一
周辺地区	三六八	三四	一	一
繁華街	一六五	一五	一	一
池袋(二〇館)	七九	七	一	一
上野(二〇館)	五九	五	一	一
神田(六館)	三七	三	一	一
有楽町(二〇館)	三七	三	一	一
浅草(一九館)	三三	三	一	一
新宿(二〇館)	二九	三	一	一
その他	一一八	一一	一	一

(ロ) 表 見た映画の種類

種 類 別	男	女	計
ちゃんばら	三一%	二五%	二九%
喜劇	二〇	二五	二二
なかのいそう	七	一五	一〇
西部劇	八	五	一三
歌舞踊劇	三	一〇	一三
ギャングもの	八	四	一二
こわいもの	五	四	九
科学もの	四	二	六
探検もの	四	二	六
その他	一〇	八	一八

忍術映画やちゃんばら映画或はギャング映画などによる悪例は新聞紙上のみでなく、実際に近隣で遊んでいる児童の動作の中から、くみとれるところである。殊に低学年では、変った動作や言葉からの影響を強く受けていることがわかる。

そうした点からも映画を見にゆくときのゆき方にも、(目)表の如くに「映画を見にゆく」と云えばすぐゆるすと云うところに問題がある。

この表のうち、「家にことわらないで見にゆく」のは低学年の限られた数になつているが、これは高学年にもあると想定される。大体希望すれば、見にゆく映画を検討したり批判したりしないで、云うままに行かせているが、これは検討や批判をなげしないか、もう一步突込んで見たとき、内容の如何を批判するだけの各家庭の映画に対する知識と云うものが欠けていることによるのである。したがつて、映画の内容如何にかかわらず、上映場所が学校であれば主催者や目的が何であろうと無批判に行かせていることはもつともよくそれを表明していると思うのである。

これらのことは友達と一緒にだからとか、友達の家人も同行だからとか、監督者又はそれに類似しているものと一緒の場合、映画の内容がどうであろうと、許可すると云うように拡がり、学校も家庭も、児童に對して放任していると云う好ましくない結果が生れていて、この点に於て、文化映画や教育映画と連携してPR映画の、この分野に對する重要な、意義が残されていると思うのである。

それには、PR映画即宣伝映画と云う考え方を捨て切れないと、この最も豊富な基盤となるべきものを失つてしまうことになるが、ヒューマンリレーションと云う立前から、そのものの価値やあり方や意義を説いたもの、或はまた文化や歴史やその他あらゆるものの中にうち出されたものに對しては、むしろこの分野が待ちのぞんでいることが、前述各表の裏側に察知される。

このことは「どんな種類の映画を見たいか」(表)に對する回答によつて示されている通り、最高希望の「科学もの」から最低の「発明もの」まで、その間僅かずつの差しか

(ア)表 どんな題名の映画を見たか ()内は面白いと答えたもの

順位	題名	計	男	女
1	牛乳屋フランキー	一八四(二四四)	一〇三(八三)	八一(六一)
2	富士の夜襲	一二〇(六五)	六八(三九)	五二(二六)
3	さざえさん	一一七(九七)	四七(三五)	七〇(六二)
4	ラド	八〇(五七)	五九(四一)	二二(一六)
5	七つの誓い	七五(四九)	五〇(三三)	二五(一六)
6	朱ざやまかり通る	六七(三三)	四七(三三)	二〇(一〇)
7	まだらへび	五二(三四)	二三(九)	二九(二五)
8	たい風騒動記	四八(二三)	二四(一〇)	二四(一三)
9	仁俠清水港	四一(二二)	三〇(二二)	一一(六)
10	黒い牡牛	三六(二二)	一七(二五)	一九(二七)
11	日本Gメン	三五(二四)	二八(二〇)	七(四)
12	やじきた黄金道中	三〇(二四)	一四(二〇)	一六(一四)
13	一夜の百万長者	三三(二六)	一八(二三)	一五(一三)
14	アフリカ縦断記	二三(二〇)	一三(一〇)	一〇(一〇)
15	土俵の鬼	二〇(二七)	一五(二二)	五(五)

(イ)表 映画を見ておもしろかったか

(以下省略)

学年別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
おもしろい%	七三	七二	六九	六四	六七	六七	六四	七四	六八
おもしろくない%	二三	二二	二四	一七	一四	二二	一九	一一	一六
その他%	一四	一六	一七	一九	一九	二二	一七	一五	一六

ないことによつても、その希望しているところのものがわかるわけである。

したがつて、「佐久間ダム」「佐久間幹線」「広重」と云つたPR映画は、もはやPR映画としておしつけられて見るものではなく、見たいために見る映画として、待たれていくわけである。

損保のPR映画も、どしどし種々

の角度から、「船の科学」「自動車の一生」など科学的のものや、豆探偵が火災原因をつきとめることによつて犯人をあげる劇映画や、各都市を地理的に紹介して、不燃化建築の思想を植えるなど材料は多種多様にあるのであるから、問題はこれにいかん前記各表間に現われたのぞまれているものを提供するかにある。

(完)

附表(一) 休み別の比較

休み別	割合と回数		割合			延回数
	男	女	平均	見た人数 に対して	調査人員 に対して	
春 休 み	四七	三四	四〇	一・七回	〇・七回	
夏 休 み	七五	六九	七二	二・一回	一・五回	
冬 休 み	六三	四七	五五	一・七回	〇・九回	

附表(二) 地区内映画館開設当時の視聴実態

学年別	みた人数		割合		男	女	計
	人数	%	人数	%			
一年	二二八	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
二年	二四三	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
三年	二六一	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
四年	二二三	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
五年	二二三	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
六年	二二三	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
男	二七三	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
女	二一七	四四	四七	五二	九八	九一	七四四
計	四九〇	四四	四七	五二	九八	九一	七四四

(カ)表 映画はためになつたか

学年別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
ためになる%	二八	三〇	二二	一九	一九	一三	一三	一八	二二
ためにならない%	二〇	三一	三八	三四	二八	三五	二七	三七	三二
その他%	五二	三九	四〇	四七	五三	五二	五〇	四五	四七

(キ)表 映画に行くとき家の人の許可をとるか

学年別	一年	二年	三年	四年	五年	六年	男	女	計
許可をとる(人)	一〇	一	九	〇	〇	〇	二二	八	二〇
許可をとらない(人)	五〇	六一	四六	三五	一一	一一	一一	八四	二二四
割合(%)	五〇	四三	二九	二八	一一	一一	三〇	二六	二九

(ク)表 どんな種類の映画を見たいか

順位	種類	希望数
1	科学	二二一
2	偉人伝	一九二
3	地理的	一六八
4	探険	一五三
5	まんが	一四八
6	愉快なもの	一四五
7	かわいそうなもの	一四一
8	発明もの	一〇五
計		一二六三

(なお本稿の資料を提示して頂いた山田先生に感謝の意を表する)
(筆者は大成火災海上保険株式会社勤務)





信頼の出来る 使いやすい 能率のよい

いちほらポンプ



市原の主義と信条

1 一番安心の出来るポンプ

国 検

..... 良質持久

2 一番使いやすいポンプ

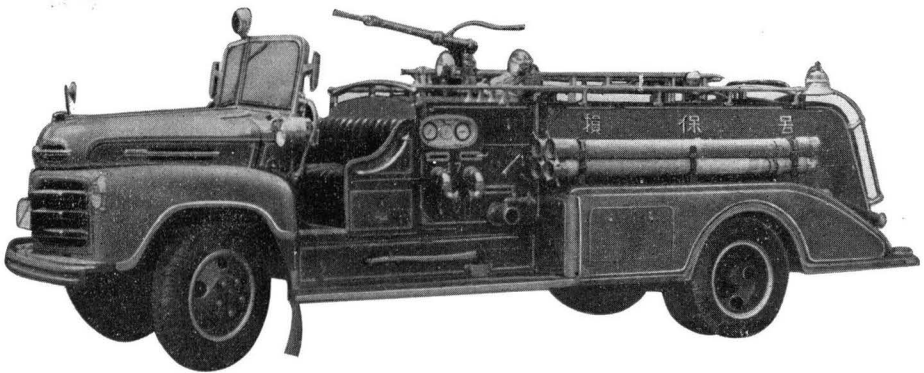
..... 取扱簡易

3 一番進歩したポンプ

..... 不断研究

A-1級合格

損害保険協会殿御用命



消防ポンプ専門メーカー 型録贈呈

会社名 市原唧筒諸機械製作所

本社 東京都中央区日本橋蛸殻町三ノ十 (水天宮前) 電話兜町 (67)六三〇四・六三〇五番
工場 東京都大田区東蒲田四丁目三三番地ノ一 電話蒲田 (73)二四六八・五九四〇番

創業 55 周年



国家消防本部 }
運輸省 } 検定合格
損害保険料率算定会 }

製品リスト

- | | |
|--------------|-------------|
| ドライケミカル消火器 | 車輪付移動式泡沫消火器 |
| ケミカルフオグ消火器 | ゼネレーター |
| C B 消火器 | 水槽付手押ポンプ |
| 二重瓶式酸アルカリ消火器 | 四塩化炭素消火器 |
| 泡沫消火器 | 各種消火薬剤 |
| 船舶用泡沫消火器 | |

常駐の消防手



あらゆる消火器の製造

本邦最大の生産高

最高の品質



株式会社 初田製作所

本社 大阪市北区神明町 7 番地

電話 (34) 2631 ~ 3

東京営業所 東京都中央区日本橋江戸橋 3-1-01

電話 (27) 2951・9295

九州出張所 福岡市上洲崎町 24
 広島出張所 広島市袋町 (日銀東横入)
 名古屋出張所 名古屋市中区南大津通り 6 の 2
 柏崎出張所 柏崎市田町 4 3 6
 仙台出張所 仙台市東四番丁 74
 北海道出張所 札幌市南四条西 2 丁目 7
 小倉出張所 小倉市西本町 2 丁目



Don't gamble with fire—
the odds are against you!

フカダ式空気泡消火装置
Air - Foam System

フカダ式噴霧消火装置
Fog System

其他特殊消火器設計製作

設計・製作・施工

石油施設消火装置

米國 NFPA 及 NSC 會員

深田工業株式會社

東京都港区本芝四ノ一六 (都電三田車庫前) 電三田 (45) 3902~3